

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-217098
 (43)Date of publication of application : 27.08.1996

(51)Int.Cl. B65D 33/34
 B65D 27/30

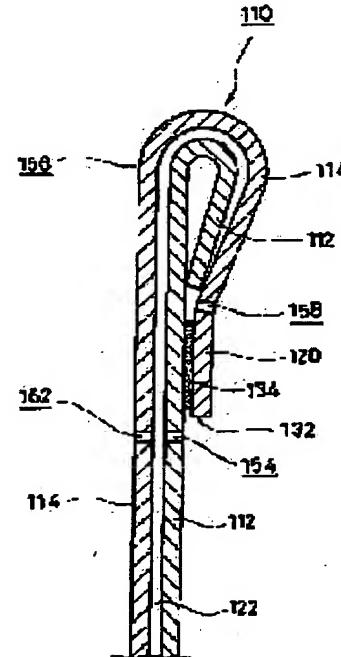
(21)Application number : 07-020502 (71)Applicant : NAKAMURA SEITAI KK
 (22)Date of filing : 08.02.1995 (72)Inventor : NAKAMURA TOSHIO

(54) BAG WITH PROHIBITIVE FUNCTION FROM UNSEALING

(57)Abstract:

PURPOSE: To secure a sufficient prohibitive function from unsealing even when a bag is folded deep and sealed, by providing prohibitive lines against unsealing at the position separated farther than the flap length from the end of the bag opening side of the front side sheet and at the nearby position of the bag opening of the flap.

CONSTITUTION: When an unfair person scrapes up the free end 132 of a flap 120 by a claw or the like and holds it to try to peel off the flap 120 from the first sheet piece 112, the first sheet 112 is pulled toward the flap 120. Accordingly, the first prohibitive line 154 against unsealing is remarkably deformed or broken and hence an unsealing trial trace is left. When a bar material like a pencil is inserted in the breadthwise direction of the bag from a ring-form part 156 which is formed by folding back the side of flap 120 of the bag 110 onto the first sheet piece 112 and further this is pressed to the bag bottom side to try to unseal the position where the flap 120 is stuck to the first sheet piece 112, from the upper side of bag, the second prohibitive line 158 against unsealing is deformed or broken and hence a trace of unsealing trial is left.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(10) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-217098

(13) 公開日 平成8年(1996)8月27日

(51) Int.CI
B 65 D 83/84
27/80

識別記号 廣内整理番号

F I
B 65 D 83/84
27/80

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数21 OL (全 27 頁)

(21) 出願番号 特願平7-20502
(22) 出願日 平成7年(1995)3月8日(71) 出願人 000212533
中村製袋株式会社
大阪府大阪市阿倍野区文の里3丁目17番11
号
(72) 発明者 中村 俊夫
大阪府大阪市阿倍野区文の里3丁目14番4
号503
(74) 代理人 弁理士 萩原 球子 (外1名)

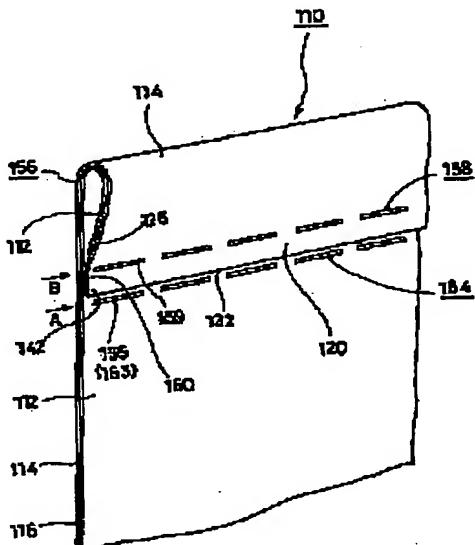
(54) 【発明の名称】 開封禁止機能を有する袋

(57) 【要約】

【構成】 この開封禁止機能を有する袋(110)は、矩形の第1シート片(112)と第2シート片(114)とを三割線において接続してなり、第2シート片(114)からフラップ(120)を延設してなり、第1シート片(112)において第1シート片(112)の袋開口端部(126)よりフラップ(120)の袋軸方向の長さ(a)より大きい長さ(b)だけ袋底部(125)の側にある位置において少なくとも袋軸方向の両側部において設けた袋軸方向に延びる断続状の切込み線よりなる第1の開封禁止線(154)と、フラップ(120)における少なくとも袋軸方向の両側部において設けた、袋軸方向に延びる断続状の切込み線よりなる第2の開封禁止線(158)を有する。

【効果】 フラップ(120)を第1シート片(112)

2) の上に折重ねて接着した状態において、フラップ(120)に対する袋底部(125)側および袋上部側からの開封の試みを共に有效地に阻止することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】開封禁止機能を有する袋(110)であつて、

矩形の第1シート片(112)と、

前記第1シート片(112)に重合させて配した前記第1シート片(112)とほぼ同大の矩形の第2シート片(114)であつて、その三側縁において前記第1シート片(112)の対応する三側縁と連接してなるものと、

前記第2シート片(114)における前記三側縁以外の一側縁(118)から外方に延設したフラップ(120)とからなり、

前記両シート片(112, 114)の間の空間が収納部(122)を構成し、前記袋(110)の前記フラップ(120)側の端部を袋開口部(124)とし、前記袋開口部(124)とは反対側の端部を袋底部(125)となし、前記袋開口部(124)と前記袋底部(125)とを結ぶ方向を袋幅方向とし、これと直交する方向を袋幅方向とし、

さらに、開封禁止手段であつて、前記フラップ(120)を前記第1シート片(112)の上に接着した状態で前記フラップ(120)をその自由端(132)側から剥離することにより不正な開封を試みた場合に開封の痕跡が残るようになした開封禁止手段を設けた開封禁止袋において、

前記開封禁止手段は第1の開封禁止線(154)よりなり、この第1の開封禁止線(154)は、前記第1シート片(112)において、前記第1シート片(112)の前記袋開口部(124)の側の端部(125)より前記フラップ(120)の袋幅方向の長さ(a)より大きい長さ(b)だけ前記袋底部(125)の側にある位置において、少なくとも袋幅方向の両側部において設けた、袋幅方向に延びる断続状の切込み線よりなり、

前記フラップ(120)における少なくとも袋幅方向の両側部においては、袋幅方向に延びる断続状の切込み線よりなる第2の開封禁止線(158)を設けたことを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項2】請求項1に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記第1の開封禁止線(154)が、袋幅方向のほぼ全長にわたって設けられることを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項3】請求項1または2に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記第2の開封禁止線(158)が、袋幅方向のほぼ全長にわたって設けられることを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項4】請求項3に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記第2シート片(114)においては、前記第1の開封禁止線(154)と合致する位置において、断続状の切込み線よりなる開封用の切取り線(162)が、袋幅方向のほぼ全長にわたって設けられている

ことを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項5】請求項1～4のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記第1シート片(112)と前記第2シート片(114)の双方には、それぞれ、前記第1シート片(112)の前記袋開口部(124)の側の端部(125)と前記第1の開封禁止線(154)との間ににおいて、袋幅方向に延びる断続状の切込み線よりなる開封用切取り線(166, 167)を設けたこと、これららの開封用切取り線(166, 167)は、前記袋の厚み方向においてほぼ合致していることを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項6】請求項1～5のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記第2シート片(114)には、前記第1シート片(112)の前記袋開口部(124)の側の端部(125)と前記第1の開封禁止線(154)との間ににおいて、袋幅方向に延びる断続状の切込み線よりなる開封用切取り線(185)を設けたこと、前記第2シート片(114)においては、さらに、袋(110)の袋幅方向の両側部において、袋(110)の倒縁(117, 118)の近傍には、前記開封用切取り線(186)と前記第2の開封禁止線(158)との間ににおいて、袋幅方向に延びる断続状の切込み線よりなる倒部切取り線(188, 189)が設けられることを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項7】請求項1～6のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記第1シート片(112)と前記第2シート片(114)との少なくとも一方には、前記第1シート片(112)の前記袋開口部の側の端部(125)と前記第1の開封禁止線(154)との間ににおいて、袋幅方向の少なくとも一部において、袋幅方向に延びる折畳み線(170, 171)を設け、前記第1の開封禁止線(154)は、前記袋を前記折畳み線を介して折畳んだときに前記フラップ(120)の自由端(132)が位置する箇所に近接させて設けたことを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項8】請求項7に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記折畳み線(170, 171)が複数設けられ、これに対応して、前記第1の開封禁止線(154)も複数配してなり、前記の第1の開封禁止線(154)の各々は、前記袋(110)を前記各第1の開封禁止線(154)に対応する前記各折畳み線(170, 171)を介して折畳んだときに前記フラップ(120)の自由端(132)が位置する箇所に近接させて設けたことを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項9】請求項7または8に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記の折畳み線(170, 171)は、袋幅方向の少なくとも両側部において設けたことを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項10】請求項7または8に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記の折畳み線(170, 171)

1) は、袋幅方向の少なくとも中央部において設けたことを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項11】請求項7～10のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記両シート片(112, 114)の双方に前記折畳み線(170, 171)を設け、これら折畳み線(170, 171)が袋の厚み方向において合致していることを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項12】請求項7～11のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記折畳み線(170, 171)が断続状の切込み線よりなることを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項13】請求項1～12のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記フラップ(120)における袋幅方向両側部にして前記第2の開封禁止線(158)より前記フラップ(120)の自由端(132)側には、V字の頂点(173, 175)が前記フラップ(120)の自由端(132)側または前記第2の開封禁止線(158)の側に向いているV字形の切込み(172, 174)が設けられていることを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項14】請求項13に記載の開封禁止機能を有する袋において、V字形の頂点(173)が前記フラップ(120)の自由端(132)側の隅角部(142)に向いていることを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項15】請求項1～12のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記フラップ(120)における袋幅方向両側部にして、前記フラップ(120)を展開した状態において前記第2の開封禁止線(158)より前記袋底部(125)側には、V字の頂点が前記袋底部(125)側に向いているV字形の切込みが設けられていることを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項16】請求項15に記載の開封禁止機能を有する袋において、V字形の頂点が、前記第2開封禁止線(158)の方向にして且つ前記袋幅方向の内方に向いていることを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項17】請求項1～16のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記フラップ(120)を前記第1シート(112)の上に折重ねた際に互いに当接し合う前記フラップ(120)と前記第1シート片(112)の箇所のいずれか一方に接着剤層(134)を設けたことを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項18】請求項17に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記接着剤層(134)が粘着テープにより与えられていることを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項19】請求項1～18のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、合成樹脂フィルム、

紙等の素材により形成されたことを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項20】請求項1～19のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記第1シート片(112)と前記第2シート片(114)との間にマチを設けたことを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【請求項21】請求項5～20のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記両シート(112, 114)は、袋両側部において、袋幅方向の所定幅において溶着されており、この溶着幅領域において、前記の開封用切取り線(166, 167)につらなるガイド用切込み(182, 184)を有することを特徴とする開封禁止機能を有する袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は開封禁止機能を有する袋に関する。

【0002】

【従来の技術】開封禁止機能を有する封筒ないし袋が種々知られている。ある人から他の人に重要な書類を収納した袋を届ける場合のように、メッセンジャーなどの第三者に内容物を見られたくない場合がある。このようなときには、メッセンジャー等が袋を無断開封しようと試みたとき、その痕跡が袋の外見上現れるようすれば、開封させない動機付けとなり、結果的に開封禁止の効果が上がる。

【0003】この発明者は、先に、次のような開封禁止機能を有する袋を提供した。すなわち、矩形の第1シート片と、前記第1シート片に重合させて配した前記第1シート片とほぼ同大の矩形の第2シート片であって、その三側縁において前記第1シート片の対応する三側縁と連接してなるものと、前記第2シート片における前記三側縁以外の一側縁から外方に延設したフラップとからなり、前記両シート片の間の空間が収納部を構成し、前記袋の前記フラップ側の端部を袋開口部とし、前記袋開口部とは反対側の端部を袋底部とし、前記袋開口部と前記袋底部とを結ぶ方向を袋幅方向とし、これと直交する方向を袋高方向とし、さらに、開封禁止手段であって、前記フラップを前記第1シート片の上に接着した状態で前記フラップをその自由端側から剥離することにより不正な開封を試みた場合に開封の痕跡が残るようになした開封禁止手段を設けたものである。

【0004】この袋を図3～図4に示す。この袋10は、共に矩形にして且つ同大の第1シート片12と第2シート片14とを重ね合わせて、対応する三側縁において連接16されている。第2シート片14における前記三側縁以外の一側縁18からはフラップ20が外方に延びている。これにより周知の袋10が形成される。この場合、第1シート片12と第2シート片14との間の空間は収納部22を構成し、この袋のフラップ20側の

端部は袋開口部24をなし、この袋開口部24とは反対側の端部が袋底部(不図示)をなしている。そして、この袋開口部24と袋底部とを結ぶ方向を袋軸方向とし、これと直交する方向を袋幅方向としている。

【0005】このような袋10において、第1シート片の前記袋開口部24の側の端部すなわち開口端より若干外方、すなわち袋軸方向においてラップ20の自由端32の側の位置においては、ラップ20の基部において、折畳み線28が設けられている。この折畳み線28は、短い切込み30の多数をそれぞれの間に微小な間隔を介して配してなる断続状の切込み線である。このように、折畳み線28は断続状の切込み線より構成されているので、この折畳み線28を介してラップ20の折畳みが容易である。

【0006】ラップ20の内面、すなわち図37における手前側には、接着剤層34がほぼ全面にわたって塗布されている。

【0007】ラップ20を折畳み線28を介して第1シート片12の上に折重ねた状態において、第1シート片12には、ラップ20の自由端32よりわずかに袋底部側の位置において、開封禁止線36が形成されている。詳しくは、この開封禁止線36も、短い切込み30の多数をそれぞれの間に微小な間隔をもつて直線状に直列配設してなる断続状の切込み線よりなるものである。第2シート片においては、この開封禁止線36と袋厚み方向において合致するように、切込み41の多数から構成される他の開封禁止線40が設けられている。

【0008】この袋をメッセンジャー等が無断開封しようとする場合について次に説明する。

【0009】図41に示すように、不正開封者が、ラップ20の自由端32の側にある1つの隅角部42の個所を爪等で掻き起こして、この個所を指でつまみ、ラップ20を、これが重合された第1シート片12から掻き起こそうとする。このとき、ラップ20に図41の矢線Aで示す方向に力がかかることにより、図における一番左側の切込み30の上端にBの方向の力がかかり、切込み38、41の上端は上方に延伸されて、切込み38、41の周辺において大きな変形が生じる。この場合においては、袋10はプラスチックフィルムにより構成されているので、このような変形が容易且つ頗るに生じ、容易に復元しない。したがって、不正開封者による開封の試みが、切込み38、41の近傍における変形として、その痕跡が残る。したがって、開封の試みが差出人、受取人等の知るところとなる可能性が大である。このようにして不正開封の試みが大いに躊躇され、結果において、不正開封が禁止されることになる。

【0010】袋10が紙で形成されている場合には、図42に示すように、ラップ20の隅角部42を上方に剥離することにより、第1シート片12における、切込み30の上方に位置する部分44は、ラップ20の剥

離された部分と共に上方に切り起こされることとなり、切込み30の両側の個所において破断46、48が生じる。このように切り起こされた部分44を、切込み30、破断線46、48で囲まれる個所に完全にぴったりと戻すことは不可能である。これを完全に戻さないときには、仮にラップ20を元どおりに第1シート片12の上に折重ねたとしても、ラップ20の表面に凹凸が生じ、第三者が容易に知り得るところとなる。また、切込み30の周における左右両端においても、上方向への短い破断50、52が露出することになり、この個所からも、開封の試みが第三者に察知される。

【0011】この袋10を開封する場合には、表裏の開封禁止線36、40より上方を手で把持して、これを図43に示すように引き裂けばよい。

【0012】

【発明が解決しようとする課題】前記の袋は好ましい効果を達成するものではあるが、なお、次のような点で問題がある。

【0013】すなわち、ラップ20は折畳み線28を介して所定個所で折返される。したがって、袋の軸方向長さに比べて収納物の長さが若しく小さい場合には、ラップ側に内容物の存在しない部分が形成される。

【0014】このような場合に、袋を内容物の長さに合わせて折返すことも考えられる。すなわち、袋底部を上方に、袋底部を下方に位置させた姿勢において、内容物の上端の個所近傍を折目として、ラップ側を折返して第1シート片の上に折重ねることが考えられる。このようにすれば、袋を封緘した状態において、袋の軸方向長さが袋内容物のそれとほぼ同長さとなり、コンパクトにまとまる。しかし、このようにした場合には、開封禁止線36、40がラップ20の自由端に近接した個所に位置するのではなく、場合により、ラップ20により覆われることもあり、開封禁止線としての役割を果たさない結果となる。

【0015】この発明は、前記のような袋において、これを深折りして封緘する場合においても、充分な開封禁止機能を有するものを提供することを目的とする。

【0016】

【課題を解決するための手段】請求項1に記載の開封禁止機能を有する袋(110)は、矩形の第1シート片(112)と、前記第1シート片(112)に重合させて配した前記第1シート片(112)とほぼ同大の矩形の第2シート片(114)であって、その三側縁において前記第1シート片(112)の対応する三側縁と連接してなるものと、前記第2シート片(114)における前記三側縁以外の一側縁(118)から外方に延設したラップ(120)とからなり、前記両シート片(112、114)の間の空間が収納部(122)を構成し、前記袋(110)の前記ラップ(120)側の端部を袋開口部(124)とし、前記袋開口部(124)とは

反対側の端部を袋底部（125）となし、前記袋開口部（124）と前記袋底部（125）とを結ぶ方向を袋軸方向とし、これと直交する方向を袋幅方向とし、さらに、開封禁止手段であって、前記フラップ（120）を前記第1シート片（112）の上に接着した状態で前記フラップ（120）をその自由端（132）側から剥離することにより不正な開封を試みた場合に開封の痕跡が残るようになした開封禁止手段を設けた開封禁止袋において、前記開封禁止手段は第1の開封禁止線（154）よりなり、この第1の開封禁止線（154）は、前記第1シート片（112）において、前記第1シート片（112）の前記袋開口部（124）の側の端部（126）より前記フラップ（120）の袋軸方向の長さ（a）より大きい長さ（b）だけ前記袋底部（125）の側にある位置において、少なくとも袋幅方向の両側部において設けた、袋幅方向に延びる断続状の切込み線よりなり、前記フラップ（120）における少なくとも袋幅方向の両側部においては、袋幅方向に延びる断続状の切込み線よりなる第2の開封禁止線（158）を設けたことを特徴とする開封禁止機能を有する袋を設けたものである。

（図1～図36）

【0017】請求項2の開封禁止機能を有する袋は、請求項1に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記第1の開封禁止線（154）が、袋軸方向のほぼ全長にわたって設けられているものである。（図1～図36。但し、図17を除く。）

【0018】請求項3の開封禁止機能を有する袋は、請求項1または2に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記第2の開封禁止線（158）が、袋軸方向のほぼ全長にわたって設けられているものである。（図1～図36。但し、図17を除く。）

【0019】請求項4の開封禁止機能を有する袋は、請求項3に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記第2シート片（114）においては、前記第1の開封禁止線（154）と合致する位置において、断続状の切込み線よりなる開封用の切取り線（156.2）が、袋幅方向のほぼ全長にわたって設けられているものである。（図1～図36。但し、図17を除く。）

【0020】請求項5の開封禁止機能を有する袋は、請求項1～4のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記第1シート片（112）と前記第2シート片（114）の双方には、それぞれ、前記第1シート片（112）の前記袋開口部（124）の側の端部（126）と前記第1の開封禁止線（154）との間ににおいて、袋幅方向に延びる断続状の切込み線よりなる開封用切取り線（156.157）を設けてなり、これら2の開封用切取り線（156.157）は前記袋の厚み方向においてほぼ合致していることを特徴とする開封禁止機能を有する袋を設けたものである。（図5～図11、図21～図30、図33、図34）

【0021】請求項6の開封禁止機能を有する袋は、請求項1～5のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記第2シート片（114）には、前記第1シート片（112）の前記袋開口部（124）の側の端部（126）と前記第1の開封禁止線（154）との間ににおいて、袋幅方向に延びる断続状の切込み線よりなる開封用切取り線（185）を設けてなり、前記第2シート片（114）においては、さらに、袋（110）の袋幅方向の両側部において、袋（110）の側部（117.1117）の近傍には、前記開封用切取り線（186）と前記第2の開封禁止線（158）との間ににおいて、袋軸方向に延びる断続状の切込み線よりなる側部切取り線（188.188）が設けられているものである。

【0022】請求項7の開封禁止機能を有する袋は、請求項1～6のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記第1シート片（112）と前記第2シート片（114）との少なくとも一方には、前記第1シート片（112）の前記袋開口部の側の端部（126）と前記第1の開封禁止線（154）との間ににおいて、袋幅方向の少なくとも一部において、袋幅方向に延びる折畳み線（170.171）を設け、前記第1の開封禁止線（154）は、前記袋を前記折畳み線を介して折畳んだときに前記フラップ（120）の自由端（132）が位置する個所に近接させて設けたものである（図21～図30）。

【0023】請求項8の開封禁止機能を有する袋は、請求項7に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記折畳み線（170.171）が複数設けられ、これに対応して、前記第1の開封禁止線（154）も複数配してなり、前記第1の開封禁止線（154）の各々は、前記袋（110）を前記各開封禁止線（154）に対応する前記各第1の折畳み線（170.171）を介して折畳んだときに前記フラップ（120）の自由端（132）が位置する個所に近接させて設けたものである（図28～図29）。

【0024】請求項9の開封禁止機能を有する袋は、請求項7または8のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記の折畳み線（170.171）は、袋幅方向の少なくとも両側部において設けたものである（図27）。

【0025】請求項10の開封禁止機能を有する袋は、請求項7または8のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記の折畳み線（170.171）は、袋幅方向の少なくとも中央部において設けたものである。

【0026】請求項11の開封禁止機能を有する袋は、請求項7～10のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記両シート片（112.114）の双方に前記折畳み線（170.171）を設け、これ

ら折畳み線（170, 171）が袋の厚み方向において合致していることを特徴とする開封禁止機能を有する袋を設けたものである（図21～図30）。

【0027】請求項1～2の開封禁止機能を有する袋は、請求項7～11のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記折畳み線（170, 171）が断続状の切込み線よりもなることを特徴とする開封禁止機能を有する袋を設けたものである（図21～図30）。

【0028】請求項13の開封禁止機能を有する袋は、請求項1～12のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記フラップ（120）における袋幅方向両側部にして前記第2の開封禁止線（158）より前記フラップ（120）の自由端（132）側には、V字の頂点（173, 175）が前記フラップ（120）の自由端（132）側または前記第2の開封禁止線（158）の側に向いているV字形の切込み（172, 174）が設けられたものである（図30～図32）。

【0029】請求項14の開封禁止機能を有する袋は、請求項13に記載の開封禁止機能を有する袋において、V字形の頂点（173）が前記フラップ（120）の自由端（132）側の周角部（142）に向いていることを特徴とするものである（図30～図32）。

【0030】請求項15の開封禁止機能を有する袋は、請求項1～12のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記フラップ（120）における袋幅方向両側部にして、前記フラップ（120）を展開した状態において前記第2の開封禁止線（158）より前記底部（125）側には、V字の頂点が前記底部（125）側に向いているV字形の切込みが設けられたものである。

【0031】請求項16の開封禁止機能を有する袋は、請求項15に記載の開封禁止機能を有する袋において、V字形の頂点が、前記第2開封禁止線（158）の方向にして且つ前記袋幅方向の内方に向いていることを特徴とするものである。

【0032】請求項17の開封禁止機能を有する袋は、請求項1～16のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記フラップ（120）を前記第1シート（112）の上に折重ねた際に互いに接し合う前記フラップ（120）と前記第1シート片（112）の個所のいずれか一方に接着剤層（134）を設けたものである（図1～図36）。

【0033】請求項18の開封禁止機能を有する袋は、請求項17に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記接着剤層（134）が粘着テープにより与えられたものである。

【0034】請求項19の開封禁止機能を有する袋は、請求項1～18のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、合成樹脂フィルム、紙等の素材により形成されたものである（図1～図36）。

【0035】請求項20の開封禁止機能を有する袋は、請求項1～19のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記第1シート片（112）と前記第2シート片（114）との間にマチを設けたものである。

【0036】請求項21の開封禁止機能を有する袋は、請求項5～20のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、前記両シート（112, 114）は、袋両側部において、袋幅方向の所定幅において溶着されており、この溶着細部領域において、前記の開封用切取り線（166, 167）につらなるガイド用切込み（182, 184）を有するものである。

【0037】

【作用】請求項1の開封禁止機能を有する袋においては、第1の開封禁止線154が、第1シート片112において、第1シート片112の開口端126よりフラップ120の袋幅方向の長さより大きい長さだけ袋底部125の側にある位置において、少なくとも袋幅方向の両側部において設けた、袋幅方向に延びる断続状の折込み線よりもなるので、フラップ120の自由端132が第1の開封禁止線154に近接した位置にくるようには袋110のフラップ120側を折返してこれを第1シート片112の上に折重ねることにより、袋110のフラップ120側をいわゆる深折りすることができる。この状態で、接着剤を介してフラップ120を第1シート112の上に接着することにより袋110の封締が行われる。

【0038】この場合において、フラップの自由端132が第1の開封禁止線154に近接して位置しているので、不正開封者がフラップ120の自由端132を爪等により搔き起こしてその部分を指で把持してフラップ120を第1シート片112から剥離しようとする場合には、第1シート片112が、袋幅方向におけるフラップ120への方向に引張られる。したがって、袋110がプラスチックフィルム素材よりもなる場合には、第1の開封禁止線154を構成する各切込み155が顕著に変形して、開封の試みの痕跡が残る。また、袋110が帆素材よりもなっている場合には、第1の開封禁止線154を構成する切込み155に連なって第1シート片の破断が生じ、同様にして開封の試みの痕跡が残る。

【0039】また、フラップ120における少なくとも袋幅方向の両側部においては、袋幅方向に延びる断続状の切込み線よりもなる第2の開封禁止線158が形成されているので、袋110のフラップ120の側を第1シート片112の上に折返して形成された輪郭状部分156より鉛筆、ペーパーナイフ等の棒状のものを袋幅方向に挿入した上でさらにこれを袋幅方向における袋底部125の側に押圧することによる。フラップ120が第1シート片112に接着された箇所を袋の上方側（袋底部125とは反対側）から開封しようとする試みがあつた場合

合にも、この第2の開封禁止線158が前記の第1の開封禁止線154と同様のメカニズムにより変形しましたはこの箇所から破断が生じて開封の試みの痕跡が残る。

【0040】このようにして、フラップ120の後110の第1シート片112に対する接着箇所は、袋底部125の側からも、また、反対の側からも開封の試みにして有効に対抗することができる。

【0041】請求項2の開封禁止機能を有する袋においては、第1の開封禁止線154が袋幅方向の全長に渡って設けられているので、不正開封者が、第1シート片112の上に接着されたフラップ120の自由端132における袋幅方向におけるいずれの箇所から開封を試みても、当該箇所に位置する第1開封禁止線154の部分に変形が生じるか、または、この部分に連なって第1シート片112の破断が生じるので、袋幅方向のいずれの箇所における不正開封の試みに対しても有効に対処することができる。

【0042】請求項3の開封禁止機能を有する袋においては、第2の開封禁止線158が袋幅方向のほぼ全長に渡って設けられているので、フラップ120が第1シート片112に接着された状態において、袋の上方側からの不正開封の試みがあった場合においても、袋幅方向のいずれの箇所においても、第2の開封禁止線158が変形し、またはこの箇所から破断が生じるので、袋幅方向のいずれの箇所からの不正開封の試みに対しても有効に対応することができる。また、第2の開封禁止線158が袋の相方向の全幅に渡って形成されているので、袋のしかるべき受取人が第2の開封禁止線を手で引き破ることにより開封することができる。この場合には、開封後に袋を再使用するときに、第2の開封禁止線158により袋底部125の割を全て袋の有効長として使用できる。

【0043】請求項4に記載の開封機能を有する袋においては、第2シート片114において、第1の開封禁止線154と合致する位置において断続状の切り込み線よりもなる開封用の切り取り線152が袋幅方向のほぼ全長に渡って設けられている。したがって、封緘された袋を、正しい受取人が、ともに袋幅方向の全幅にわたって延びた第1の開封禁止線154と開封用の切り取り線152の箇所から切離すことにより袋110を開口させることができることとなる。

【0044】請求項5の開封禁止機能を有する後においては、第1シート片112と第2シート片114との双方に、第1シート片112の後閉口部124側の端部126と第1の開封禁止線154との間ににおいて袋幅方向に延びる断続状の切り込み線よりなる開封用切取り線156、157を設けたものであり、袋の正当な受取人が、この開封用切取り線156、157と前記の第2の開封禁止線158とにより面される袋幅方向に延びる帯状部分159を手で把持して袋110より分離して袋の開封が行われる。この場合には、袋の開封が容易であるとともに

にも、袋開封後に使用可能な袋の有効長が相當に大きくなる。このようにして袋を開封したときに、その開口部の近傍において、第1シート片112上に、第2の開封禁止線158とフラップ120の自由端132との間の帯状部分が残る。これにより開口部の近傍にいわゆる隙が与えられるので、開口部において第1シート片112と第2シート片114との双方を分離し易く、収納物を容易に挿入できる。なお、この開封用切取り線166、167を、フラップ120の自由端132と第1の開封禁止線154との間の袋軸方向の中間点よりフラップ120の自由端132の側に片寄せて配したときは、袋を封締した状態において帯状部分169は袋折返し部の前面側に位置することになる。これに対して、開封用切取り線166、167を前記の中間点より袋底部125の側に片寄せて配するときは、封締状態において、帯状部分169は袋折返し部の前後にまたがって位置することになる。

【0045】請求項5に記載の開封禁止機能を有する袋においては、第2シート片114において、一方で、(1)前記第1シート片112の前記開口部124の側の端部126と前記第1の開封禁止線154との間ににおいて、横方向に延びる断続状の切込み線よりなる開封用切取り線186を設けるとともに、他方で(2)袋110の袋幅方向の両側部において、袋110の倒錐片117、1117の近傍には、前記開封用切取り線186と前記第2の開封禁止線158との間ににおいて、袋幅方向に延びる断続状の切込み線よりなる倒部切取り線188、188を設けたものであるので、袋110の両側部において、倒部切取り線188、188より後側端部を手で把持して、これを倒錐外方に向かって引張ることにより、この箇所を袋本体側からちぎり取る。これにより、袋110を構成する第1シート片112と第2シート片114における前記の開封用切取り線186と第2の開封禁止線158により囲まれる袋幅方向に細長い扁平なリング状片190における袋幅方向の両側部において、表裏シート112と114とが開口する。この状態から、第2シート片114における、前記開封容の切取り線186と第2の開封禁止線158とにより囲まれる帯状部分191を、前記開封用の切取り線186と第2の開封禁止線158とを用いて切取ることができる。このようにして、袋のしかるべき受取人が開封した状態においては、第2シート片114における開封用切取り線186の箇所が袋開口端を成し、第2シート片112における前記開封容の切取り線186より袋自由端側にある帯状部分192がこのようにして得られた袋の新たなフランプを構成する。すなわち、しかるべき受取人がこの袋を開封した後で、この袋を再利用する際には、袋内に収納物を挿入した後、新たなフランプである前記帯状部分192を第2シート片114の上に折重ねて、接着剤、粘着テープ片等でこれを止めることにより、新たな

封緘が達成できる。

【0046】請求項7に記載の開封禁止機能を有する袋においては、袋幅方向に延びる折畳み線170、171が設けられており、この折畳み線170、171において袋110のフラップ120の側を第1シート片112の上に折重ねることにより、自動的に、フラップ120の自由端132が第1開封禁止線154に近接した箇所に位置する。したがって、フラップ120の側を折重ねる際に、その位置決めに注意する必要もなく、自動的に開封禁止の効果が得られる。

【0047】請求項7に記載の開封禁止機能を有する袋においては、折畳み線と第1の開封禁止線をそれぞれ複数にして多段に設けたので、内容物の袋軸方向における長さに応じて、適当な折畳み線170、171を選択してその箇所で折畳みフラップ120の側を第1シート片112の上に折重ねることが可能であり、しかもその際に、フラップ120の自由端132はそれぞれ対応する開封禁止線154に近接した箇所に位置することになるので、いずれの折畳み線を用いて折畳んだ場合にも、有效地に開封禁止をすることができる。

【0048】請求項9の開封禁止機能を有する袋においては、前記の折畳み線170、171が袋幅方向の少なくとも両側部において設けられているので、例えば、袋の両側縁を両手の、親指を除く指により押えつつ、両手の親指をもってそれぞれ対応する袋両側部の近傍にある折畳み線170、171を上から押圧することにより、この折畳み線170、171を介して、フラップ120の側を第1シート片112の上に容易に折重ねることが可能である。

【0049】請求項10に記載の開封禁止機能を有する袋においては、折畳み線170、171が袋幅方向の少なくとも中央部に設けられているので、袋幅が大きい場合には、袋両側部を両手で押えつつ両手の親指をもってまず袋中央部を押圧することにより畳みぐせをつけて、その後、親指を袋両側部側に押圧しつつ移行させることにより折畳みを行うことが可能である。

【0050】請求項11に記載の開封禁止機能を有する袋においては、前記の折畳み線170、171が袋を構成する両シート片112、114の双方に設けられているので、折畳みがいっそう容易であり、フラップ120の自由端132をより容易且つ確実に第1開封禁止線154に近接した位置までもたらすことができる。

【0051】請求項12に記載の開封禁止機能を有する袋においては、前記の折畳み線170、171が断続状の切込み線より構成されているので、より容易且つ確実に袋を折畳むことができる。

【0052】請求項13に記載の開封禁止機能を有する袋においては、フラップ120における袋幅方向両側部にして且つ第2の開封禁止線158よりフラップ120の自由端側に、V字の頂点173、175がフラップ自

由端132または第2の開封禁止線158の側に向いたV字形の切込み172、174が設けられているので、フラップ120をその自由端132の側から爪等で掻き起こすことにより剥離しようとする試みや、逆に、フラップ120が第1シート片112の上に接着された状態における袋上方よりの開封の試みに対しても有効に対処できる。すなわちそのような開封の試みがあつた場合には、V字形切込み172、174によって囲されたフラップ120におけるV字状部分176、178が第1シート片112の上に貼着されたままで残り、さらなる開封の試みを行おうとした場合には、V字の両脚部の端部177から連なって破断が生じるからである。

【0053】請求項14に記載の開封禁止機能を有する袋においては、前記のV字形の切込み172のV字の頂点173がフラップ120の自由端側の隅角部142の側に向いているので、特に、しばしば試みられるフラップ自由端142側からの掻き起こしの試みに対して有効に対処することができる。

【0054】請求項15に記載の開封禁止機能を有する袋においては、フラップ120において、第2の開封禁止線より、フラップを重ねた状態における上方側すなわちフラップを展開した状態における袋底部側にV字形の切込みが設けられているので、フラップ120を第1シート片112上に貼り付けた状態での上方側からの開封の試みに対してさらに有効に対処することができる。

【0055】請求項16の開封禁止機能を有する袋においては、請求項14におけるV字形の切込みの頂点が第2開封禁止線158の方向にして且つ袋幅方向内方に向いているので、フラップ120が貼り付けられた状態における袋上方側にして且つ袋側部側からのフラップ120の掻き起こしの試みにさらに有効に対処することができる。

【0056】請求項17に記載の開封禁止機能を有する袋においては、フラップ120を該シート片112の上に重ねた状態において当接し合うフラップ120の内面と第1シート片の外縁とのいずれか一方に接着剤層を設けているので、袋のユザにおいて別途接着剤層を形成する作業を要する事がない。

【0057】請求項18に記載の開封禁止機能を有する袋においては、請求項17における接着剤層に代えて貼着テープを配しているので、接着剤層の形成および接着がより容易である。

【0058】請求項19に記載の開封禁止機能を有する袋においては、素材が合成樹脂フィルム、紙等の偏平な素材より形成されているので、この袋を封筒として用いる場合に一層有利である。

【0059】請求項20に記載の開封禁止機能を有する袋においては、マチを有し袋厚み方向に厚みを有する袋についてもこの発明を有効に適用することができる。

【0060】請求項21に記載の開封禁止機能を有する

袋においては、請求項5～19のいずれか1項に記載の開封禁止機能を有する袋において、袋両側部において、前記両シート112、114が袋幅方向における所定幅において溶着された溶着部領域180を有しており、この領域180において、前記の開封用切取り線166、167につながるガイド用切込み182、184を設けたものであるので、袋製造工程において、多數の袋を袋幅方向に連接してなり、相隣接する2つの袋の間ににおいて、袋側端同士を袋幅方向の所定幅領域において熱溶着させた製造方法により製造される袋にこの発明を適用することが可能となり、さらに、ガイド用切込みを設けたことにより、袋の側端から前記の開封用切取り線166、167に容易に到達することが可能となる。

【0061】

【実施例】この発明の1つの実施例を図1～図4に基づいて説明する。

【0062】この実施例の袋110は開封禁止機構を別にして図24以下に示す従来の袋と同じであり、対応する箇所は、図37以下の図面の参照符号に100を加えた数字で示す。

【0063】袋110は扁平な封筒である。この封筒は共に紙方向に細長い長方形の第1シート片112と第2シート片114とを重ね合わせてなる。これら両シート片112、114は、図において上方の1つの倒縁118を除く3つの倒縁において連接116されている。第2シート片114の前記一倒縁118から図において上方にフラップ120が延設されている。両シート112、114の間の空間は収納部122を構成する。この袋110のフラップ120の側の端部を袋開口部124とし、この袋開口部124とは反対側の端部を袋底部125とする。そして、この袋開口部124と袋底部125とを結ぶ方向を袋軸方向とし、これと直交する方向を袋幅方向と称することにする。

【0064】この袋の素材としては、プラスチックフィルム、紙、その他のシート状材料を用いることができる。プラスチックフィルムを用いる場合には、袋幅方向に延びる長尺状のプラスチックシートを袋底部125に相当する部分において折疊んだものを袋幅方向の所定間隔毎に袋軸方向において熱溶着することにより形成してもよい。この場合には、表裏のプラスチックフィルムシート(第1シート片112と、第2シート片114と)が袋底部においては一体に連続し、袋の左右両側端117、118においては表裏シートが熱溶着された袋が得られる。

【0065】プラスチックフィルムを用いる場合も、このような製法に限られず、単体である第1シート片112と、第2シート片114とフラップ120とを一体に連接してなる単体であるシート片とを重ね合わせて、袋開口部側の一倒縁118を除く三倒縁の全てにおいて、

両シート片を熱溶着してもよい。その他適宜の製法を採用することができる。

【0066】また、袋110を紙素材により形成する場合には、周知の郵送用定型封筒のように、上部にフラップを接続した袋表シート(第2シート片114に相当)の左右両側部に接続した両側片を袋表シート上に折疊んで、これら両側片の自由端同士を接着剤により接着して、裏シート(第1シート片112に相当)を構成するとともに、袋表シートの底部側に延びる他のフラップを折返して裏シート上に重ね合わせて接着することにより袋底部を形成したものでもよい。その他、紙素材により袋を作成する方法は限定されない。

【0067】フラップ120の内面側すなわち紙面の手前側の面には、接着剤層134が形成されている。

【0068】以上に記載した袋110の基本形態は、周知の封筒と同様である。

【0069】このような袋110において、袋110の第1シート片112には、袋幅方向に延びる第1の開封禁止線154が設けられている。この開封禁止線154は、比較的短い長さの線状切込み155の多數を相互間に微小間隔をもて一直線上に直列状に配してなる、断続状の切込み線である。図面においては、この開封禁止線154を微小な粗孔を有するものとして示しているが、これは図示の便のためであり、実際には粗孔を有さない単なる切込みであつてよい。このことは、本発明における他の切込み線、折れ線などについても全て同様である。さらに、この開封禁止線154は多數の小孔を直線状に並設してなる、いわゆるミシン目状のものでもよい。このことも、本発明の他の切込み線、折れ線などについても同様である。この開封禁止線154が設けられる箇所は、フラップ120の袋軸方向の長さより長い長さだけ袋開口端126から袋底部125側にあらしたときにおいて、袋110は袋開口部124より袋底部125の側の倒の箇所において折曲されている。

【0070】この袋を封緘するときは、袋軸方向においてフラップ120の自由端132と第1の開封禁止線154とのほぼ中間にある袋幅方向の倒縁の折り線を介して、フラップ120の側を第1シート片112の上に折重ね、接着剤層134を介してフラップ120と第1シート片112とを接着する。このとき、図3と図4とに示すように、フラップ120の自由端132が、第1の開封禁止線154のわずかに上方に位置するようになる。これにより、無断開封者がフラップ120の自由端132を爪等で搔き起こすことにより、フラップ120を第1シート片112から剥離しようとする試みをする際には、図42と図43に示すところと同様にして、第

1シート片112における開封禁止線154の各切込み155が頬部に変形するか破断する。これにより不正開封者に開封の試みを躊躇させ、開封禁止の効果を上げることができる。

【0071】第1開封禁止線154は、前記のような作用からすれば、必ずしも袋幅方向全幅にわたって設ける必要はなく、少なくとも袋幅方向の両側部にのみ設け、袋幅方向における中央部において省略してもよい。すなわち、袋の接着部を剥して不正開封しようとする試みは、しばしば、ラップ120の左右両側にある隅角部142の頂点を爪等で引き起こすことにより始められるものであるので、少くともこの隅角部142に近接した個所において開封禁止線154を設けることにより、不正開封を防止できるからである。しかし、もちろん、第1の開封禁止線154を袋幅方向の全幅にわたって配することにより、袋幅方向のいずれの個所における開封の試みにも有効に対処することができる。

【0072】このようにして、袋110を封緘した状態において、図3における下側からの不正開封の試み、すなわち、ラップ120をその自由端132の側から引き起こして開封しようとする試みは有効に阻止することができる。しかし、図3に端的に示すように、ラップ120を深折りする場合には、重合した2枚のシート片112、114が引きそろえられた状態で屈曲した輪奈状部分156が形成される。この輪奈状部分156は袋側部において解放しているために、この部分に鉛筆、ペーパーナイフ等の棒状体を袋幅方向に挿入して、これを袋幅方向に押し下げるにより、ラップ120の上側からの不正開封を試みることが予想される。この考案においては、このような試みにも対処するために、ラップの適当な位置において(図示の場合には、ラップの基部、すなわちラップ120の袋開口端126の近傍において)、第2の開封禁止線158を設けている。この開封禁止線154は、第1の開封禁止線154の場合と同様にして、比較的短い長さの切込み159の多数を狭小な間隔において一直線上に直列に配してなる、断続状の切込み線である。

【0073】第2の開封禁止線158も袋幅方向の全幅にわたって形成してもよいが、袋幅方向の両側部においてのみ設けてもよい。すなわち、図3の状態において袋上方側からラップ120の接着部を引き剥そうとする場合には、まず、ラップの基部側にある隅角部すなわち図3における第2の開封禁止線158と袋側縁との交点近傍の隅角部150を第1シート片112から剥離しようとするのが普通であり、この隅角部150の近傍に第2の開封禁止線158を配することにより不正開封の試みに有効に対処できるからである。

【0074】第2シート片114においては、第1の開封禁止線154と袋厚み方向において合致する個所において、袋幅方向の全幅にわたって、開封用の切取り線1

62が形成されている。この切取り線162も、所定長さの切込み163の多数からなる断続状の切込み線である。この実施例においては、このように、表裏両シート112、114における相対応する個所に2本の断続した切込み線154、162が設けられているので、袋110の正當な受取人が、これを用いて袋110の開封をことができる。すなわち、図3の状態から第1シート片112に設けた第1の開封禁止線154と、その背後にあら第2シート片114に設けた開封用切取り線162とに沿って、袋側縁における矢線Aの方向から切込んで、第1の開封禁止線154と開封用の切取り線162より図における上方側を、図における下方側より分離する。このとき、図3における袋110の左側縁から最も左にある切込み155(163)との間は指により引裂く。これにより、袋110は、第1の開封禁止線154と開封用の切取り線162の個所において開口することになる。前記のところでは、第1の開封禁止線154は袋110の両側部のみ配してもよい旨を述べたが、このような開封方法をとるときには、第1の開封禁止線154は袋110の全幅にわたって設けられることになる。

【0075】このような開封方法に代えて、第2の開封禁止線158を用いて開封することもできる。すなわち、図3において、袋110の左側縁と、第2の開封禁止線158の最も左の切込み159との間を、矢線Bにより示す方向に、指を用いて切裂き、第2の開封禁止線158に沿って第2シート片を切裂くことにより、第2の開封禁止線158において袋110を開封する。この場合には、輪奈状部分156が袋の一部として残る。したがって、開封された袋は、前記のような第1の開封禁止線154に沿って袋を開封する場合と比べて、輪奈状部分156の間長分だけ袋を長く利用することができる。そしてこのような開封方法の場合には、ラップ120は第1シート片112の上に接着されたまま残るので、袋開口部124の近傍において、袋幅方向に、ある程度の剛性(いわゆる腰)を有する帯状部分が形成されることになる。したがって、正規の受取人が袋110を開封したあと袋110を再利用する場合において、袋110に収納物を挿入しようとするときに、袋開口部124において、袋110を構成する第1シート片112と第2シート片114とを容易に分離することができる。もちろん、この袋の開封方法は以上のところに限定されず、例えば図3の輪奈状部分156の頂部、その他の個所をはさみなどを用いて袋幅方向に切裂いてもよい。

【0076】この実施例においては、ラップ120の内面に接着剤層134を設けたが、これに代えて、図示を省略するが、ラップ120の内面に両面接着テープを貼り付けてもよい。この場合には、両面接着テープの図1における紙面の裏側の接着剤層を介して両面接着テープをラップ120に取付ける。このとき、両面接着

テープにおける手前側の接着面がラップ120の内面側に露出することになる。そして、この接着面には剥離紙が貼られている。

【0077】また、ラップ120に接着剤層を設けたり接着テープを取付けたりすることに代えて、袋110を封緘する際にラップ120が折重ねられる第1シート片112の個所（すなわち第1の開封禁止線154の袋開口部124の側に隣接する袋幅方向に延びる帯状領域）において、袋幅方向に、ラップ120の袋軸方向長さと同幅の接着剤層を設けるか、または同様の接着テープを取付けてもよい。

【0078】さらに、ラップ120と第1シート片112とのいずれにも、このような接着剤層または接着テープを一切設けずにユーザーに提供し、ユーザーにおいて適宜の接着剤を塗布する等してこの袋を使用してもよい。

【0079】袋110は図示のような扁平なものに限られず、図示を省略するが、第1シート片112と第2シート片114との間にマチを配して、袋に所定の厚みを与えてもよい。

【0080】図5～図10にはこの発明の他の実施例を示す。

【0081】前記第1の実施例とこの実施例との相違は、他の開封用切取り線を設けたところにある。すなわち、第1シート片112と第2シート片114との双方における袋厚み方向に合致する個所において、袋幅方向の全幅にわたって延びる断続状の切込み線よりも開封用切取り線166、167が設けられている。これら切取り線は、所定個の切込み168、169の多数を微小間隔をあいて配したものである。そして、これらの開封用切取り線166、167は袋開口部124と第1の開封禁止線154との間にあてて配されている。

【0082】開封用切取り線166、167をこのような位置に設けたので、図7に示すようにこの開封用切取り線166、167は第2の開封禁止線158と平行して配されることになる。図5に示すように、ラップ120の自由端132と第1の開封禁止線154との間の袋軸方向の距離δの中間点Xを通過する袋幅方向の仮想線を介してラップ120の側が第1シート片112の上に折重ねられるが、この折れ線より、図5に示すように、ラップ120の側に前記の開封用切取り線166、167を設ければ、図7に示すように、袋を封緘した状態において、開封用切取り線166、167と第2の開封禁止線158との双方が輪奈状の折返し屈曲部156における、紙面の手前側に現れることになる。このようにして、開封用切取り線166、167と開封禁止線158によって囲される帯状部分169を切除することができる。これにより、袋110は開封され、その際、開封された袋は開封用切取り線166、167の個所において開口することになる。この場合には、第2の開封禁止線158も袋の全幅にわたって設けられている

ことが必要である。

【0083】図3に示す場合のように、正規の開封者が第2の開封禁止線158に沿って開封する場合に比べて、図9の場合には、正規の開封者は、開封用切取り線166、167と第2の開封禁止線158との間の所定個の帯状部分169を手で把持して開封できるので、開封作業が容易である。しかも、第1の開封禁止線154の個所で開封する場合に比べて、開封後の袋の袋軸方向の長さが長く、袋の有効利用長が大であって好ましい。

【0084】このようにして開封された袋110においては、図10に示すように、袋の開口端の近傍に袋幅方向に延びる帯状部分が残る。この部分は、ラップ120の自由端132と第2の開封禁止線158とにより囲まれる帯状部分である。したがって、前記第1の実施例について述べたように、この帯状部分により、開封後の袋開口部に腰を与えるので、紙片等の柔らかくて扁平な収納物を持入する際に、袋110の第1シート片112と第2シート片114とを分離して開口させ易い。

【0085】なお、図11【a】に示すように、開封用切取り線166、167を輪奈部156の頂部に設けることができる。この場合は、開封用切取り線166、167を、図5における点Xを通過する袋方向の仮想線に合致させて設ける場合である。この場合においては、袋を封緘した状態において、輪奈部156における袋前面側に現れる個所のうち、ラップ120を除く部分の全体が開封の際本体側から切除されることになる。また、この場合には、開封用切取り線166、167は後述の折畳み線を兼ねることになる。

【0086】また、開封用切取り線166、167を、図5における点Xを通過する袋方向の仮想線より図において下側に設ける場合には、図11【b】に示すように、開封用切取り線166、167は輪奈状の折返し部156の背面側に現れる。すなわち、袋を開封するためには切除する帯状部分の一側線（第2の開封禁止線158）は手前側にあり、他の側線（開封用切取り線166、167）は背面側にあることになる。

【0087】図12～図18には、この発明の他の実施例を示す。

【0088】この実施例と、前記の図5～図10に示す実施例との相違点は、開封用切取り線を両シート片112、114と共に設けることに代えて、第2シート片114にのみ開封用切取り線186を設けたことである。そして、第2シート片においては、袋110の袋幅方向の両側部において、その側線117、117（図では左側の側線のみ示す）の近傍において、前記開封用切取り線186と第2の開封禁止線158との間にあてて、袋軸方向に延びる側部切取り線188を設けたものである。詳しくは、この切取り線188は、短い軸方向の長さを有する線状の切込み189を袋軸方向において一直線上に直列に配したものである。側部切取り線186

は、図12における第2の開封禁止線158を構成する最も左の切込み159の後幅方向の途中の箇所の近傍から、開封用切取り線186における最も左の切込み187の対応する箇所の近傍にまで延びている。

【0089】このように構成しているので、図14に示す袋110を封緘した状態において、剖部切取り線188より袋側線117の側において、両シート片112、114を指で把持し、これを袋側部外方側に向かって引張ることにより、両シート112、114における、剖部切取り線188と、第2の開封禁止線158の最も左の切込み159と、開封用切取り線186の最も左の切込み187とにより囲まれる、袋軸方向に細長い表裏シート片195を、本体側から引きちぎる。

【0090】これにより、開封用切取り線186と第2の開封禁止線158とにより囲まれる、両シート片112、114により構成されるリング状片190が、剖部切取り線188の箇所において、袋側部外方に向かって開口する（図15参照）。このようにして、リング状片190を構成する表裏の帯状部分191、192が相互間で分離するので、図16に示すように、手的側の帯状部分191の端部を手で把持して、これを、切除する。

【0091】これにより、図19に示すような袋が得られる。この袋においては、第2シート片114における元の開封用切取り線186があつた箇所が開口端を構成し、第1シート片112の前記帯状部分192が新たなフラップを構成する。このフラップ192は、前記のとおり、元の袋110における剖部切取り線181より剖部外方側を除いたものであり、袋幅方向において、両シート片112、114の相よりわずかに短く構成される。

【0092】この袋を再利用する際には、収納物を袋内に挿入した後、新たなフラップ192を第2シート片114の上に折畳み、必要に応じて、接着剤、粘着テープを介して、フラップ192を第2シート片114に接着することができる。

【0093】前記の図12～図19の実施例においては、第2シート片114に開封用の切取り線186を設けたものであるが、第1シート片112におけるこの開封用切取り線186と対応する箇所に折畳み線を設けてもよい（不図示）。これにより、図20に示すように、正当な受取人が開封した後の状態において、新たなフラップ192基部において、フラップ192の折畳みを容易とする折畳み線193が配された状態となる。この折畳み線193としては、袋幅方向に延びる所定長さの切込みの多數を袋幅方向に直線状に直列に設けた断続状の切込み線であつてもよい。さらに、袋の第2シート片をその厚み方向に圧縮する等して形成した折畳み線であつてもよい。

【0094】図12～図19に示す実施例と、図20に示す実施例とにおいて、切取り線186は輪郭状部15

6の例に設けてもよい。また、これらの実施例において、剖部切取り線188は、図示のように直線状にして正確に軸方向に配することに変えて、少し斜め方向でもよく、湾曲状、波状その他の任意の形状であつてもよい。

【0095】図21～図26にはこの発明のさらに他の実施例を示す。

【0096】この実施例と図5～図10に示す実施例との相違点は、開封用切取り線166、167と第1の開封禁止線154との間ににおいて折畳み線170、171を設けた点である。第1の折畳み線170は、第1シート片112において、所定幅の切込み172の多數を微小な間隔をもつて一直線状に配してなる断続状の切込み線よりなる。また、折畳み線171は第2シート片114において同様の切込み173の多數を微小な間隔をもつて一直線状に配してなる断続状の切込み線よりなる。そして、折畳み線170、171は袋厚み方向において互いに合致する箇所に設けられている。折畳み線170、171を設ける袋軸方向における箇所は、フラップ120の自由端132と第1の開封禁止線154との間の袋軸方向長さのほぼ中間点（図5の点Xに相当）である。このようにすれば、袋110のフラップ120の側を折畳み線170、171を介して第1シート片112上に折重ねた際に、フラップ120の自由端132が、図14に示すように、第1の開封禁止線154の直上に位置することになる。

【0097】図示の場合には、折畳み線170、171とともに、開封用切取り線166、167も示されているが、開封用切取り線166、167はこれを省略して、折畳み線170、171のみを設けてもよい。また、図11の状態において、開封用切取り線166、167を折畳み線170、171より袋底部の側に設けてもよい。

【0098】図27には、図21～図26の実施例の変更例を示す。この場合には、前記の折畳み線170、171は袋幅方向の両側部においてのみ設けられており、中央部においては省略されている。これに代えて、折畳み線170、171を袋幅方向の中央部にのみ設けてよい。

【0099】また、図示を省略するが、両シート片112、114にそれぞれ折畳み線170、171を設けることに代えて、第1シート片112または第2シート片114のいずれか一方のみに、袋幅方向の全幅にわたつて、または、袋幅方向の両側または中央部のみにおいて折畳み線を設けてもよい。

【0100】さらに、折畳み線170、171として、図示のような第1シート片112または第2シート片114を貫通する断続状の切込み線に代えて、これらシート片112、114を押圧して肉薄にすることにより形成した折畳み線でもよい。その他、袋の折畳みを容易と

するものであればどのような形態の折畳み線でもよい。【0101】また、折畳み線170、171は両シート片112、114のいずれか一方にのみ設けてよい。すなわち、このようなものでも、袋の使用者は折畳むべき箇所を知ることができるからである。

【0102】図26の実施例においては、さらに、第1の開封禁止線154は両側部においてのみ設けられ中央部で省略されている。また、第2の開封禁止線158も袋幅方向の両側部においてのみ設けられており中央部において省略されている。

【0103】図28と図29とには、図21～図26の実施例の他の変更例を示す。この場合においては、袋110の折畳みを数ヶ所において段階的に行うことが可能であり、その結果、収納物の多岐にわたる長さに対応して、袋をできるだけ収納物の長さに近い形で折畳めるようしている。すなわち、前記実施例においても共通して設けられた開封用の切取り線156、157より袋底部側において4つの折畳み線170a、170b、170c、170dが設けられ、これに対応して、これよりさらに袋底部側において4つの第1の開封禁止線154a、154b、154c、154dが配されている。これら複数の折畳み線および第1の開封禁止線の位置関係は次のとおりである。すなわち、袋110のフラップ120の側を第1段の折畳み線170aを介して折重ねた際にフラップ120の自由端132は第1段の第1開封禁止線154aの図における直上の箇所に位置し、第2段の折畳み線170bにより折重ねたときはフラップ120の自由端132は第2段の第1開封禁止線154bの図における直上に位置し、第3段の折畳み線170cにおいて折重ねた際にはフラップ120の自由端132は第3段の第1開封禁止線154cの図における直上に位置し、さらに、第4段の折畳み線170dにおいて折重ねたときはフラップ120の自由端132は第4段の第1開封禁止線154dの図における直上に位置することになる。

【0104】なお、図示の実施例においては、第1段の折畳み線170aと第2段の折畳み線170bとの間隔と、第2段の折畳み線170bと第3段の折畳み線170cとの間隔は等間隔であり、第3段の折畳み線170cと第4段の折畳み線170dとの間隔は前記間隔より大きくなされている。4つの第1開封禁止線154a～dの相互間の間隔もこれに対応している。

【0105】このような袋110の段階的な折畳み状態を図29に略示している。すなわち、図29の(1)に示す場合は、第1段の折畳み線170aにおいて折返した場合であり、以下、(2)、(3)、(4)の場合はそれぞれ折畳み線170b、170c、170dにおいて折返した状態を示している。

【0106】図30はこの発明のさらに他の実施例を示す。この実施例は、図21～図26に示す実施例において、さらにV字状の切込みを追加したものである。すな

わち、図30において、第2の開封禁止線158よりフラップ120の自由端132の側には、V字状の切込み172、174が設けられている。このうち、V字状の切込み172は、フラップ120の自由端132側における隅角部142に、その頂点173が向いている。また、他のV字状の切込み174は、その頂点175が第2の開封禁止線158の側に向いている。

【0107】V字形の切込み172の場合は、フラップ120をその隅角部142の側から搔き起こして第1シート片112より剥離しようとする場合には、V字によって囲まれる、フラップ120の領域176が第1シート片112の上に残る。剥離がV字の脚部の端部177の箇所に達し、さらにそれ以上に剥離しようとする場合には、フラップ120において、脚部177より上方に破断線が生ずる。このことは、フラップ120を図20における上方側から剥離しようとする際にV字状切込み174においても生じる。

【0108】V字状の切込み172、174はさらに、図32に示すように、V字172、174の切込みにおける両脚部の端部177、177より相接近する方向に延びるハ字状部179を設けることができる。このようにすれば部分176は菱形状となり、その上端においてフラップ120から切離されて第1シート片112の上に残されることになるので、開封禁止効果はさらに大きい。

【0109】なお、図示を省略するが、図30において、フラップ120において、その相方向両側部にして且つフラップ120を展開した状態において第2の開封禁止線158より袋底部125の側にもV字形の切込みを設けることが好ましい。この場合にはV字の頂点が袋底部125の側に向いていることが好ましい。このようにすれば、不正な開封者が図30の状態において、上方側よりフラップ120の接着部を開封しようとする試みに対しても有効に対処することができる。

【0110】図33にはこの発明のさらに他の実施例を示す。

【0111】これは、図31の変更例にあたる。この袋110は袋両側部において、第1シート片112と第2シート片114とが、袋幅方向の所定幅で、袋幅方向に溶着されている。このようにして形成された溶着細部領域180においては、開封用切取り線156、157に直線状にそらなる短い切込み182と、領域180の側線181に開口し前記切込み182の図における左端部近傍にまで到達した他の切込み184が形成されている。そのため、図30に関して説明したように、袋を封締した状態でしかるべき受取人に届けられた袋を、当該受取人が開封用切取り線156、157を用いて開封しようとする際には、まず、領域180における側線181において開口した切込み184を切裂いて、切込み184を他の切込み182と接続させる。さらに切裂きを

進めることにより、開封用切取り線156、157に到達し、このようにして、両切取り線156、157を円滑に切裂くことが可能となる。

【0112】この実施例の袋110は次のようにして袋を製造することを可能とする。すなわち、第2シート片114とフラップ120などを連接してなる裏シートの上に、この裏シートと袋底部側において連接する表シートである第1シート片112を折重ねる。このとき表裏両シートは袋幅方向すなわち供給長手方向に連続している。このようにして袋素材を長手方向すなわち袋幅方向に供給しつつ、フラップ内面に接着剤134を塗布するとともに、切取り線156、157、第1および第2の開封禁止線154、158を、さらに折畳み線170、171を形成する。そして、隣り合う袋110、110の間には、前記領域180の2倍の幅方向長さを有する接続代が形成されている。この接続代にこれとは逆に同幅の加熱された溶着部材を押し付けることにより、当該箇所が溶着される。そのようにして袋幅方向に送られた長尺状シート材が、所定位置において、領域180の倒線181に該当する箇所において溶断され、各袋単体110が得られる。

【0113】前記した全ての実施例においては、種々の開封禁止線、開封用切取り線、折畳み線は、いずれも、幅方向に直線状に延びるものであった。しかし、折畳み線を除いては、必ずしもこのように直線状である必要はない。図34はそのことを示す説明図である。この図において、第1の開封禁止線154は、袋幅方向の両側部においては、袋幅方向に直線状に延びる断続状の切込み線であるが、袋幅方向の両側部を残す袋中央部においては、第1シート片112における第1の開封禁止線154を構成する切込み155と、第2シート片114においてこの第1の開封禁止線154と対応する箇所に設けた開封用の切取り線152を構成する切込み153とは互いに反対方向に傾斜して設けられ、両者が交差した状態に形成されている。また、第2の開封禁止線158を構成する各切込み159は、袋幅方向中央部においては、図において右下がりの傾斜状に形成されている。さらに、第1シート片112と第2シート片114とにそれぞれ設けた開封用切取り線156、157を構成する各切込み158、159は、袋幅方向の中央部において、互いに引き揃えられて、傾斜し、全体として波状を形成している。さらに、図示を省略するが、袋幅方向に断続状に延びる直線状の開封禁止線または開封用切取り線を構成する各切込みについて、隣接するものを上下に段違いに配してもよい。すなわち、例えば袋左側縁から右側縁に連なる一連の切込みにおける奇数番目のものを上方に配し偶数番目のものをそれより若干下方に配してもよい。以上の傾斜した、または段違いの切込みを袋幅方向の全幅にわたって設けてもよい。図3は説明のために、種々の線の種々の配設状態を1図で示そうとしたも

のであり、図示のような袋が実際に作成されるわけではない。

【0114】このように、開封禁止線や開封用切取り線を構成する各切込みが傾斜したり、隣接する切込みが段違いに設けられていてよく、その際に、両シート片112、114において対応する位置に設けられている2本の開封禁止線ないし開封用切取り線が、厚み方向に合致して、すなわち、引き揃えられた形で配設されていてもよく、表裏の対応する切込み同士が交差したり、段違いに設けられていてもよい。もちろん、この場合、開封禁止や開封用の切取りの目的からして、その傾斜の程度や上下の段違いの程度は微小であるのが好ましい。また、両シート片112、114に設けた対応する切込みの位置がずれている場合においても、そのずれの程度は佳少であることが望ましい。

【0115】開封禁止線や開封用切取り線を図34のように構成するのは次のような理由による。すなわち、この発明の袋が明実に使用される前に、すなわち、メーカーや販売店における保存時や搬送時において、開封禁止線や開封用切取り線に繋り返し曲げが加わる場合には、この箇所において破断が生じる可能性がある。しかし、これらの線を完全な一直線とはせずに、途中で図34に示すような形態で屈曲させていると、袋はこれらの線において折れ曲がらず、前記のような破断の恐れが少なくなる。この構成は、特に、紙を素材とする袋において有用である。

【0116】なお、この発明の袋を封緘した状態における、第1の開封禁止線154とフラップ120の自由端132の位置関係につき若干言及する。すなわち、請求項7、8においては、これらが近接した配設状態にあることが記載され、作用の項における、請求項1、7等においても、同様に、フラップ120の自由端132が第1の開封禁止線154に近接した位置に記されている旨が記載され、実施例において、図1～図4において、袋封緘状態において、フラップ120の自由端132が第1の開封禁止線154の左か上方に位置する旨の記載がある。この発明において、第1の開封禁止線154とフラップ120の自由端132が近接した位置に配設されているとは、図35の155A、155B、155Cのいずれかの状態を意味する。すなわち、155Aに示す切込みは、袋110の封緘状態において、フラップ120の下端すなわち自由端132より左かに袋底部側に位置している。これにより、フラップ120を自由端132から引き起こしてフラップ120を引き剥そうとする試みがあった場合に、切込み155Aが変形（プラスチックフィルム素材の場合）または破断（紙素材の場合）することになる。しかし、同様の機能は、155Bに示すように、切込みがフラップ120の自由端132より袋上端側にある場合、すなわち切込み155Bがフラップ120により覆われている場合についても同様で

ある。この場合には、ラップ120を引き剥そうとする力がより効率的に切込み155bの両端に集中し、破断が生じやすい。さらに、153cに示すように、切込みの上半分が、ラップ120により覆われ、下半分がラップの自由端132から下方に露出していてもよい。図35は説明のために、第1の開封禁止線を構成する切込みとラップ自由端の位置関係についての種々の態様を1回に表したものである。

【0117】同様のこととは、図36に示すように、第2の開封禁止線154を構成する各切込みが図34において示したように傾斜している場合についても同様に妥当する。

【0118】

【発明の効果】請求項1の開封禁止機能を有する袋においては、袋の開口部側をいわゆる深折りして封緘する事が可能であり、しかも、このように封緘した状態において、ラップ120の袋110の第1シート片112に対する接着箇所は、袋底部125の側からも、また、反対の側からも開封の試みに対して有効に対抗することができる。

【0119】請求項2の開封禁止機能を有する袋においては、袋幅方向のいずれの箇所においても、ラップ120の自由端132からの不正開封の試みに対して有効に対処することができる。

【0120】請求項3の開封禁止機能を有する袋においては、袋幅方向のいずれの箇所においても、ラップ120の上方側からの不正開封の試みに対して有効に対応することができる。また、このように、第2の開封禁止線158が袋の幅方向の全幅に渡って形成されているので、袋のしかるべき受取人が開封する際に、この第2の開封禁止線を手で引き破ることにより開封することができる。この場合には、開封後これを再利用する際に、第2の開封禁止線158より袋底部125の側を全て袋の有効長として使用できる。

【0121】請求項4に記載の開封機能を有する袋においては、袋の正しい受取人が封緘された袋を、第1の開封禁止線154と開封用の切取り線152の箇所から切離すことにより袋110を開口させることができる。

【0122】請求項5の開封禁止機能を有する袋においては、開封用切取り線155、157と第2の開封禁止線158とにより囲まれる袋幅方向に延びる帯状部分169を袋110より分離することにより袋を開口させるので、袋の開口が容易であるとともに、袋開口後に使用可能な袋有効長が相当に大きくなる。

【0123】請求項6に記載の開封禁止機能を有する袋においては、しかるべき受取人が開封したとき、第1シート片の延長部として新たなラップを得ることができるので、袋内に收納物を挿入した後でこの新しいラップを第2シート片114上に折重ねて、必要に応じ、接着剤、粘着テープ等で止めることにより、封緘が達成さ

れる。このように、再利用の際にも新たなラップ付の袋が得られて好適である。

【0124】請求項7に記載の開封禁止機能を有する袋においては、袋幅方向に延びる折畳み線155、157において折畳んで袋110のラップ120の側を第1シート片112の上に折重ねることにより、自動的に、ラップ120の自由端132が第1開封禁止線154に近接した箇所に位置する。すなわち、ラップ120の側を折重ねる際に、その位置決めに注意する必要もなく、自動的に開封禁止の効果が得られる。

【0125】請求項6に記載の開封禁止機能を有する袋においては、内容物の袋幅方向における長さに応じて、適当な折畳み線170、171を選択して、その箇所において折畳みラップ120の側を第1シート片112の上に折重ねることによりコンパクトな封緘姿勢を得ることができ、いずれの折畳み線170、171を用いて折畳んだ場合にも、有効に開封禁止をすることができる。

【0126】請求項9の開封禁止機能を有する袋においては、折畳み線170、171が袋幅方向の両側部を例えば両手の親指により押圧することにより、この折畳み線170、171を介して、ラップ120の側を第1シート片112の上に容易に折重ねることが可能である。

【0127】請求項10に記載の開封禁止機能を有する袋においては、折畳み線170、171が設けられている袋幅方向の中央部を例えば両手の親指により押圧することにより、畳みくせをつけて、その後親指を袋両側部側に押圧しつつ移行させることにより広幅の袋であっても容易に折畳みを行うことが可能である。

【0128】請求項11に記載の開封禁止機能を有する袋においては、折畳み線170、171が両シート片の双方に設けられているので、ラップ120の自由端132をより容易且つ確実に第1開封禁止線154に近接した位置までもたらすことができる。

【0129】請求項12に記載の開封禁止機能を有する袋においては、折込み線170、171が断続状の切込み線より構成されているので、より容易且つ確実に袋を折畳むことができる。

【0130】請求項13に記載の開封禁止機能を有する袋においては、ラップ120をその自由端132の側から爪等で掻き起こすことにより剥離しようとする試みや、逆に、ラップ120が第1シート片112の上に接着された状態における袋上方よりの開封の試みがあつた場合には、V字形切込み172、174によって囲まれたラップ120におけるV字状部分175、176が第1シート片112の上に貼着されたまま残り、さらなる開封の試みを行おうとした場合には、V字の両脚部の端部177から連なって破断が生じるので、このような不正開封を有効に防止できる。.

【0131】請求項14に記載の開封禁止機能を有する袋においては、しばしば試みられるフラップ自由端142側からの引き起こしの試みに対して特に有効に対処することができる。

【0132】請求項15に記載の開封禁止機能を有する袋においては、フラップ120を第1シート片112上に貼り付けた状態での上方側からの開封の試みに対してさらに有効に対処することができる。

【0133】請求項16の開封禁止機能を有する袋においては、フラップ120が貼り付けられた状態における袋上方側にして且つ袋側面側からのフラップ120の引き起こしの試みにさらに有効に対処することができる。

【0134】請求項17に記載の開封禁止機能を有する袋においては、袋のユーザにおいて別途接着剤層を形成する作業を要しない。

【0135】請求項18に記載の開封禁止機能を有する袋においては接着剤層の形成および接着がより容易である。

【0136】請求項19に記載の開封禁止機能を有する袋においては、素材が合成樹脂フィルム、紙等の扁平な素材より形成されているので、この袋を封筒として用いる場合に一層有利である。

【0137】請求項20に記載の開封禁止機能を有する袋においては、マチを有し袋厚み方向に厚みを有する袋についてもこの発明を有効に適用することができる。

【0138】請求項21に記載の開封禁止機能を有する袋においては、長尺状の収納材を連続走行させながら、隣り合う2つの袋の間にて所定幅の熱溶着領域を形成するようにした製造方法による袋に適用することができる。そして、この袋においては、前記の溶着熱溶着領域180において、ガイド用の切込みが設けられているので、この封筒を封締した後しかるべき受取人が開封用切取り線166、167を用いて開封する際に便利である。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の1つの実施例に関わる開封禁止機能を有する袋の左肩部を拡大して示す斜視図。フラップは展開している。

【図2】前図の横断面図。

【図3】図1と図2の袋において、フラップ側を第1シート片の上に折重ねた状態を示す斜視図。

【図4】前図の横断面図。

【図5】この発明の他の実施例を示す図1と同様の図。

【図6】前図の断面図。

【図7】図5と図6の袋において、フラップの側を第1シート片の上に折重ねた状態を示す斜視図。

【図8】前図の断面図。

【図9】図5～図8に示す袋において、開封用切取り線と第2の開封禁止線との間の帯状部分を分離しつつある状態を示す斜視図。

【図10】前図の状態から分離を終了して袋が開口した状態を示す斜視図。

【図11】【a】は図5～図10に示す実施例の変更例を示す図8と同様の横断面図。【b】はさらに他の変更例を示す前図同様の横断面図。

【図12】この発明のさらに他の実施例を示す図1と同様の図。

【図13】前図の横断面図。

【図14】図12と図13において、フラップの側を第1シート片の上に折重ねた状態を示す斜視図。

【図15】前図の横断面図。

【図16】前図の状態から、第1シート片と第2シート片とにおける開封用切取り線と第2の開封禁止線とにより囲まれるリング状片における袋両側部をちぎり取った状態を示す斜視図。

【図17】前図の状態からリング状片の前面側にある帯状部分をちぎりとっている状態を示す斜視図。

【図18】前図の工程を終了した状態の横断面図。

【図19】前図の状態から袋口部側を開いた状態を示す斜視図。

【図20】図12～図19までの実施例の変更例を示す図19と同様の図。

【図21】この発明のさらに他の実施例を示す図1と同様の図。

【図22】前図の全体を示す斜視図。

【図23】図20の横断面図。

【図24】図21～図23の袋において、フラップ側を第1シート片の上に折重ねた状態を示す斜視図。

【図25】前図の全体図。

【図26】図24の横断面図。

【図27】図21～図26の変更例を示す図22と同様の全体図。

【図28】図21～図27のさらに他の変更例を示す要部斜視図。

【図29】前図の袋を用いて段階的に折込んだ状態を示す概略側面図。

【図30】この発明の他の実施例を示す要部斜視図。

【図31】前図のV字形切込みのメカニズムを示す要部斜視図。

【図32】前図のV字形切込みの変更例を示す前図同様の図。

【図33】この発明の他の実施例を示す要部斜視図。

【図34】この発明における種々の開封禁止線と開封用切取り線の種々の配設状態を示す説明図。

【図35】この発明における第1の開封禁止線とフラップの自由端の位置関係を示す説明図。第1の開封禁止線が直線状に延びている場合である。

【図36】前図と同様の図。但し、第1の開封禁止線はこれを構成する各切込みが斜めに配されている場合である。

【図3 7】この発明者が先に提供した開封禁止機能を有する袋を示す要部斜視図。

【図3 8】前図の断面図。

【図3 9】図3 7と図3 8の袋においてラップを第1シート片の上に折重ねて接着した状態を示す斜視図。

【図4 0】前図の概断面図。

【図4 1】図3 7～図4 0の袋がプラスチックフィルム素材により形成されている場合において、不正開封の試みによる袋の変形状態を示す斜視図。

【図4 2】前図において袋が紙素材により形成されている場合において、開封禁止線に連続して破断が生じている状態を示す斜視図。

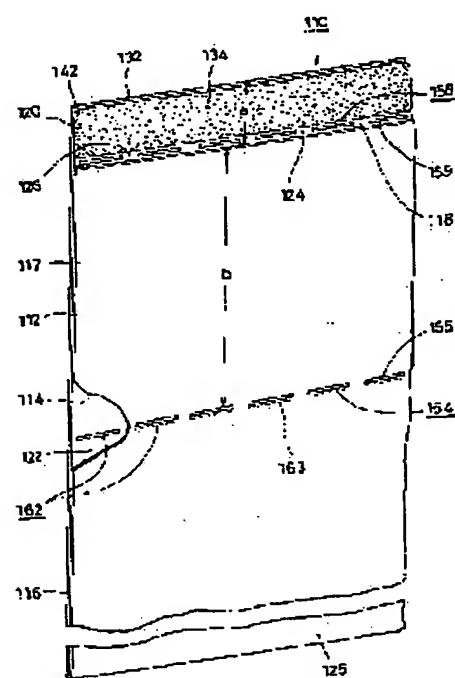
【図4 3】図3 7～図4 2に示す袋において、袋を開封しつつある状態を示す斜視図。

【符号の説明】

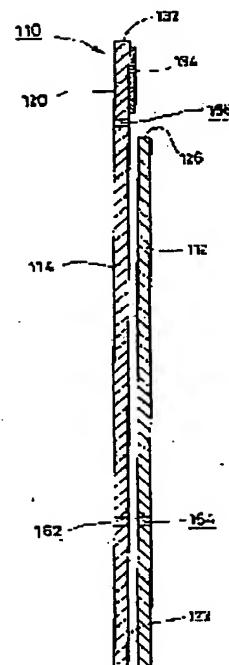
- 110 袋
- 112 第1シート片
- 114 第2シート片
- 117 袋の一側縁
- 118 袋の一側縁
- 120 ラップ
- 124 袋開口部

- 125 袋底部
- 126 第1シート片の開口端
- 132 ラップの自由端
- 134 接着剤層
- 154 第1の開封禁止線
- 156 第2の開封禁止線
- 162 開封用の切り線
- 166 開封用切り線
- 167 開封用切り線
- 170 折疊み線
- 171 折疊み線
- 172 V字形の切込み
- 173 その頂点
- 174 V字形の切込み
- 175 その頂点
- 176 滑落抑制領域
- 181 倒縁
- 182 ガイド
- 184 ガイド
- 186 開封用切り線
- 188 倒部切り線

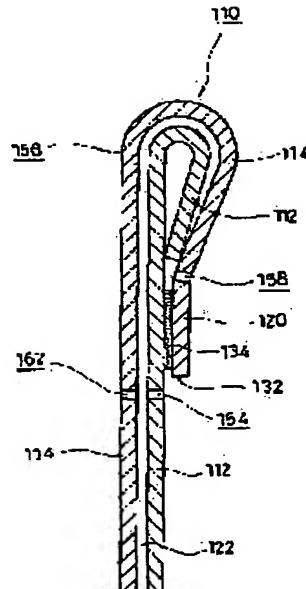
【図1】



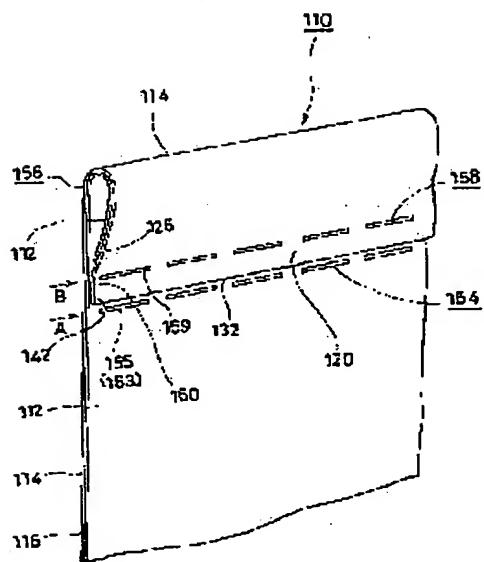
【図2】



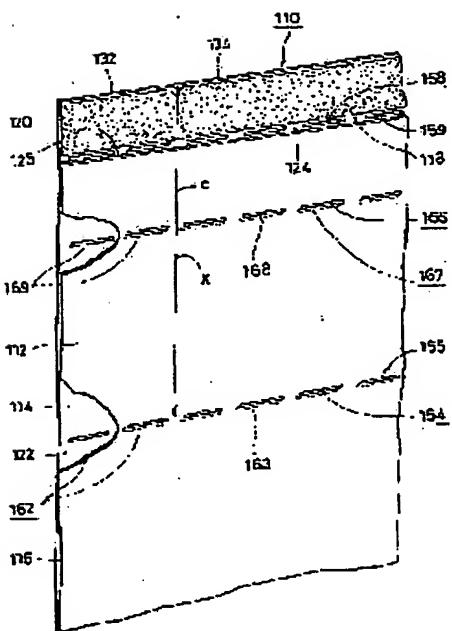
【図4】



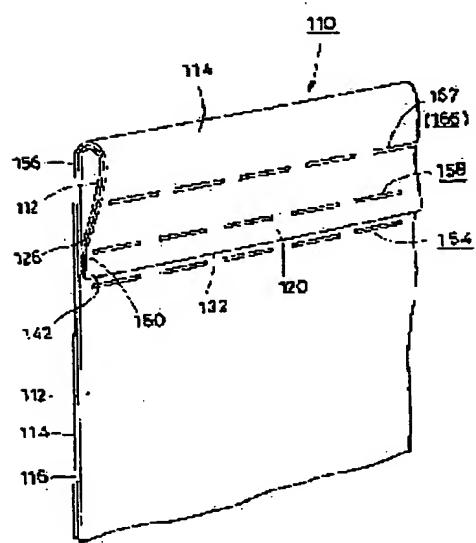
〔四三〕



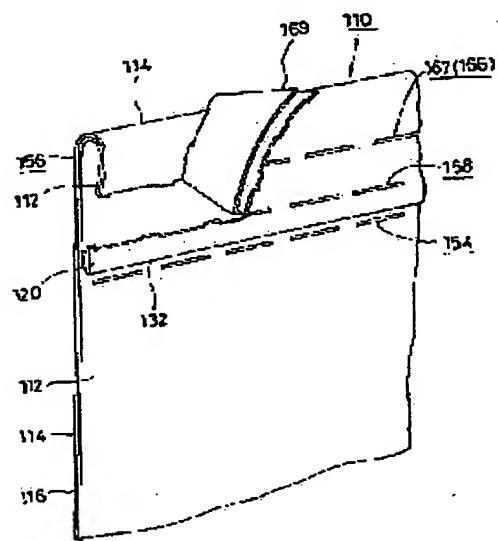
〔図5〕



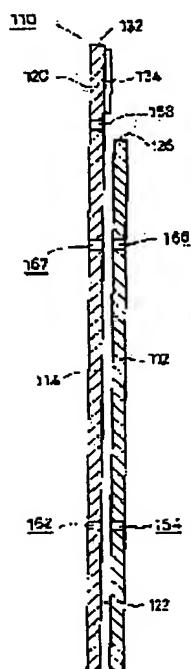
【図7】



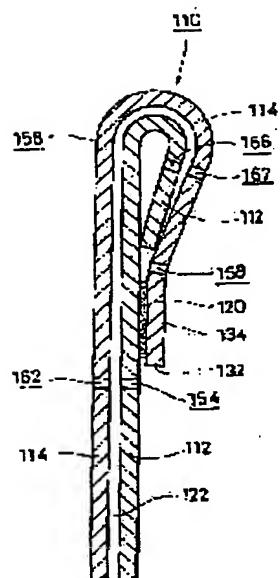
【四九】



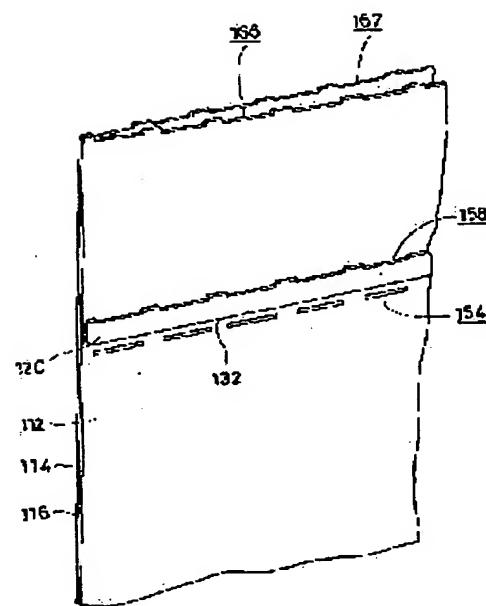
【図6】



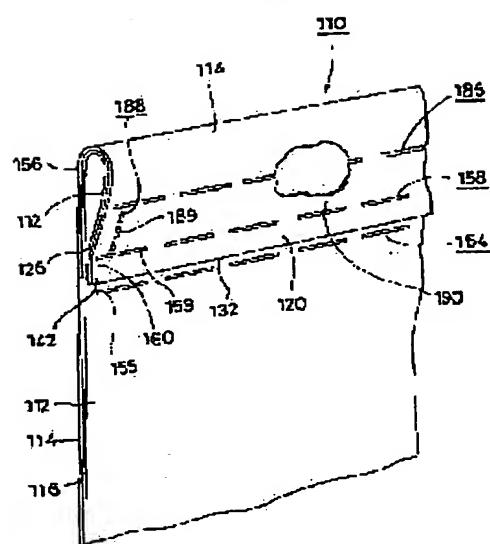
【図8】



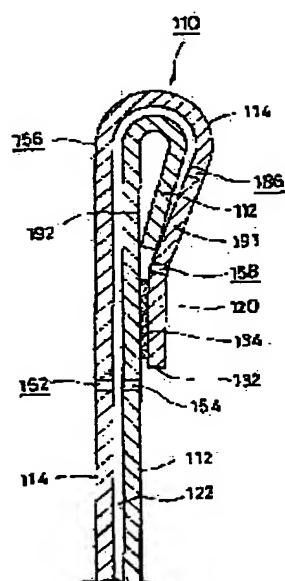
【図10】



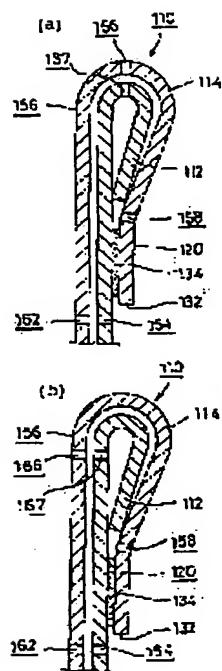
【図14】



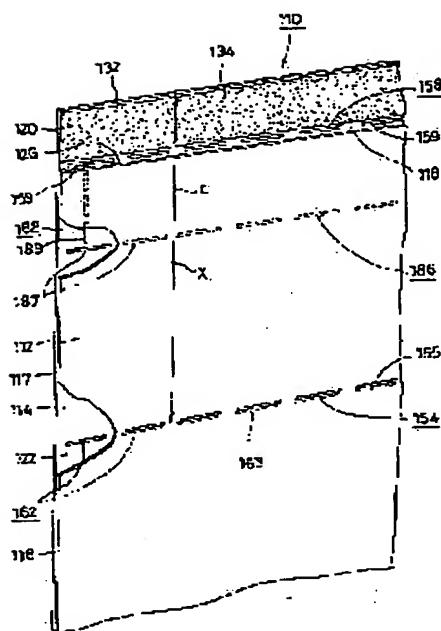
【図15】



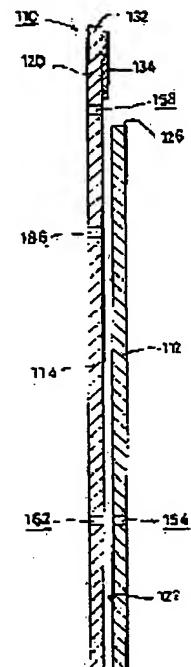
[图11]



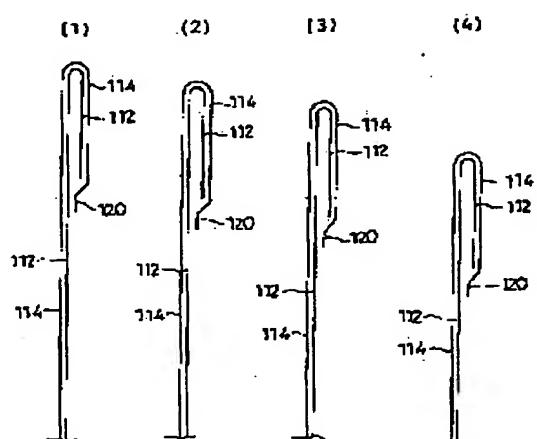
[図1-2]



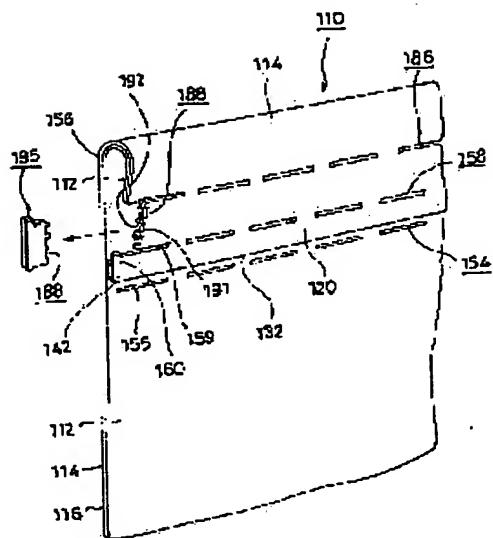
〔図13〕



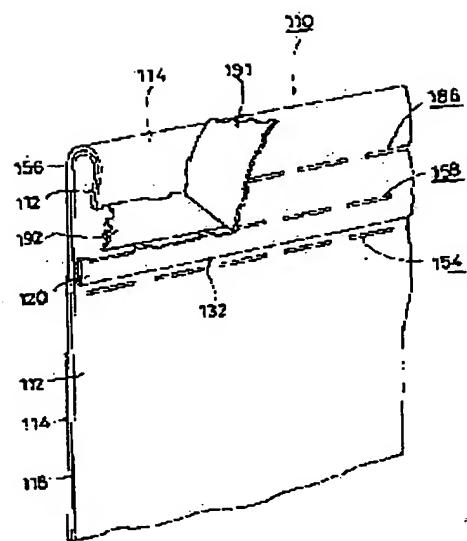
[図29]



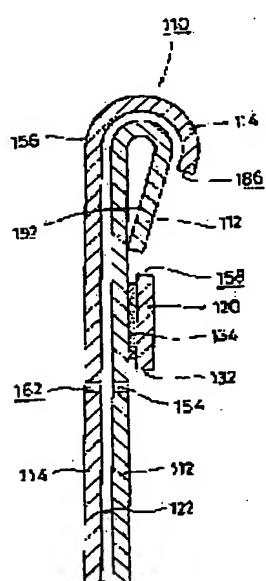
【図16】



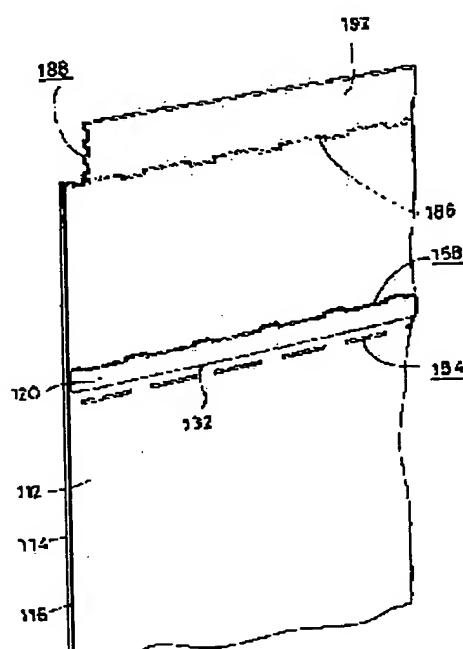
【図17】



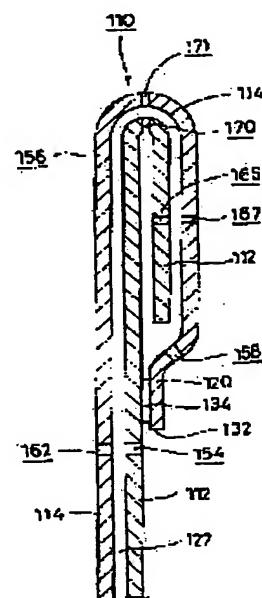
【図18】



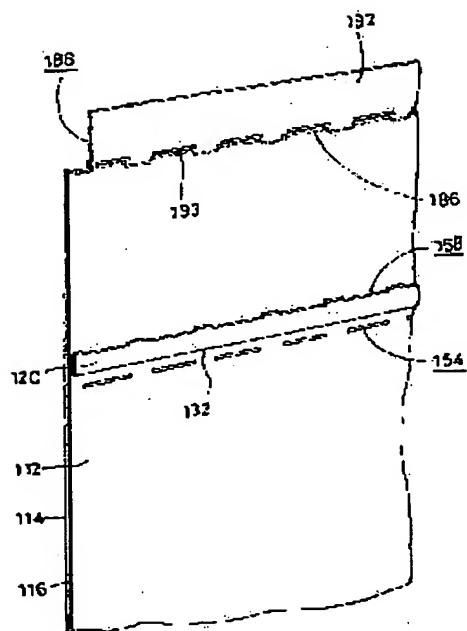
【図19】



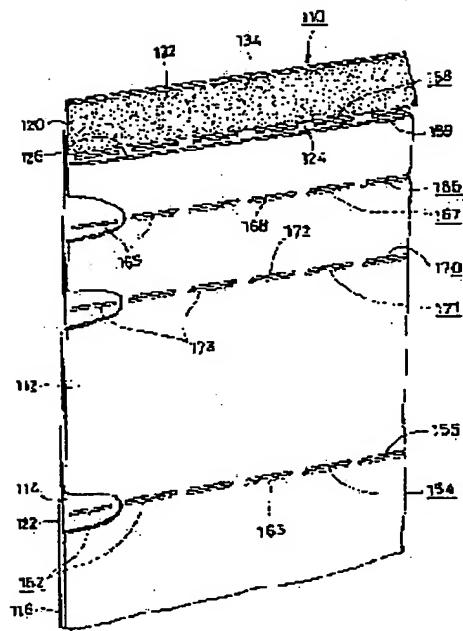
【図26】



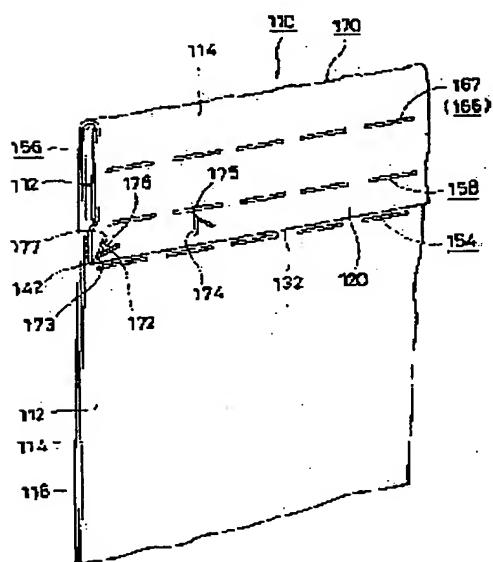
【図 20】



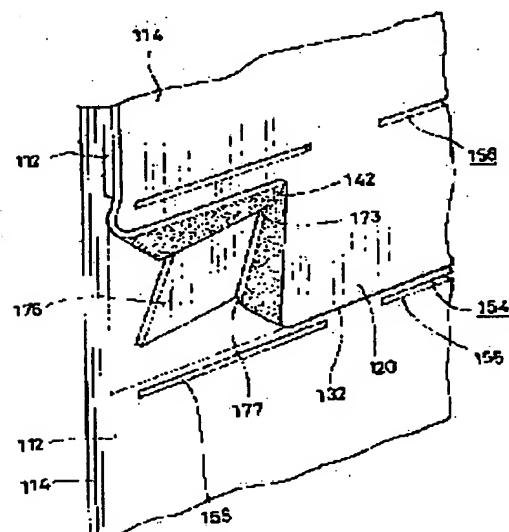
【図 21】



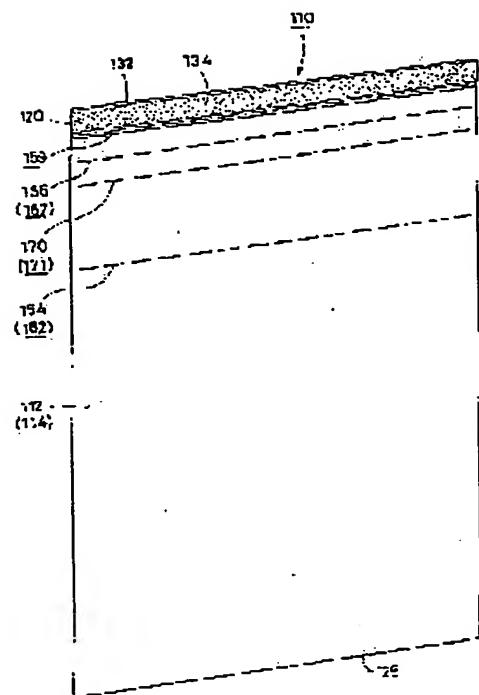
【図 30】



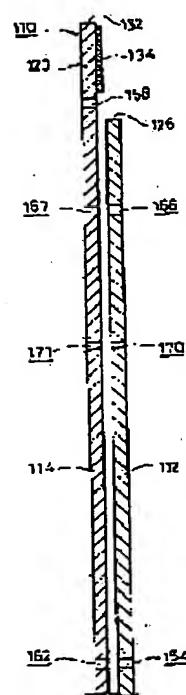
【図 31】



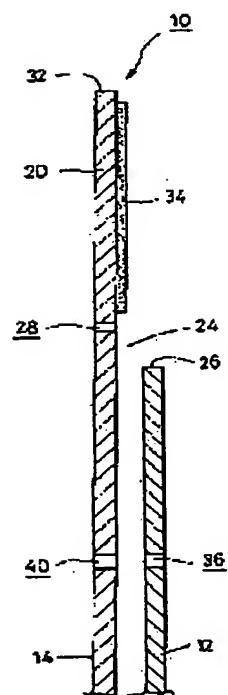
[図22]



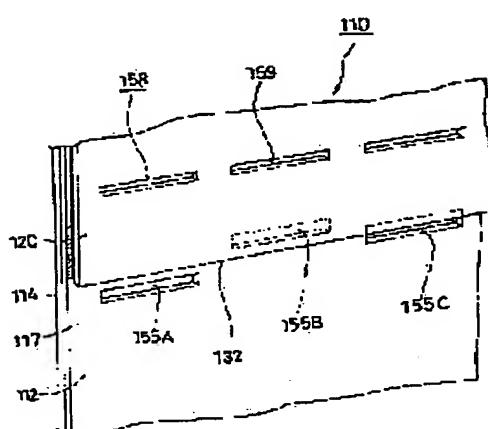
[図23]



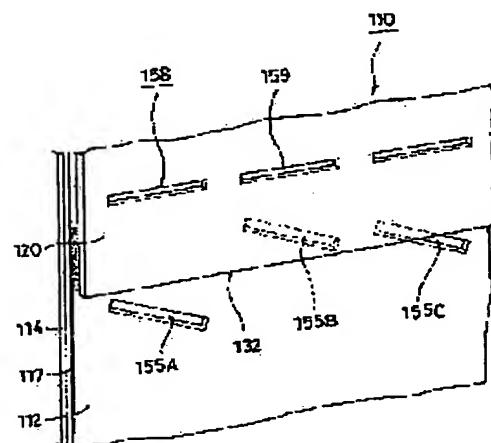
[図38]



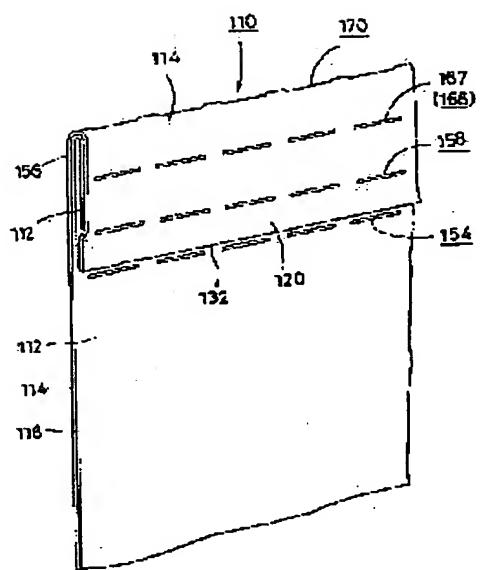
[図35]



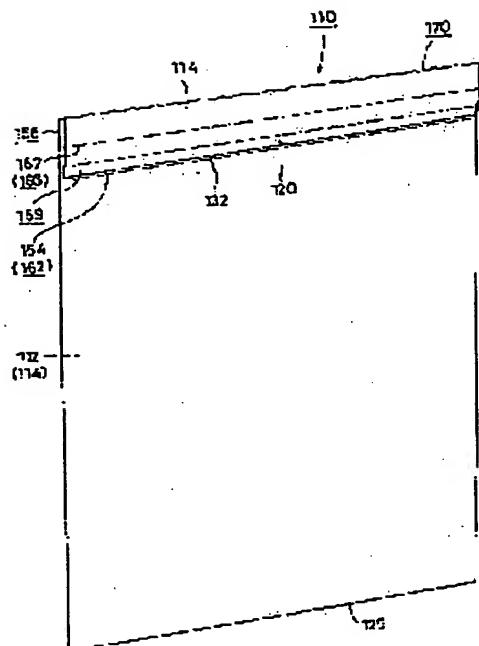
[図36]



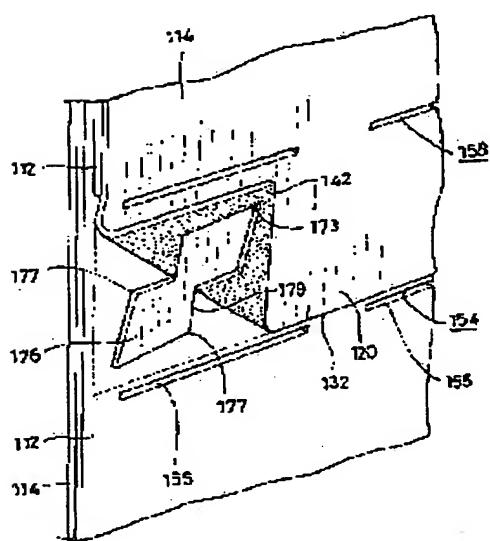
[四24]



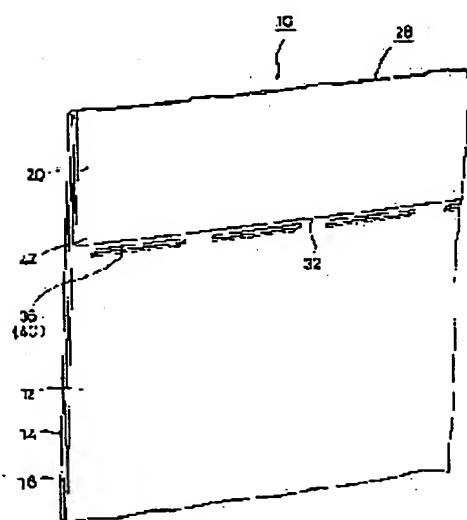
[図25]



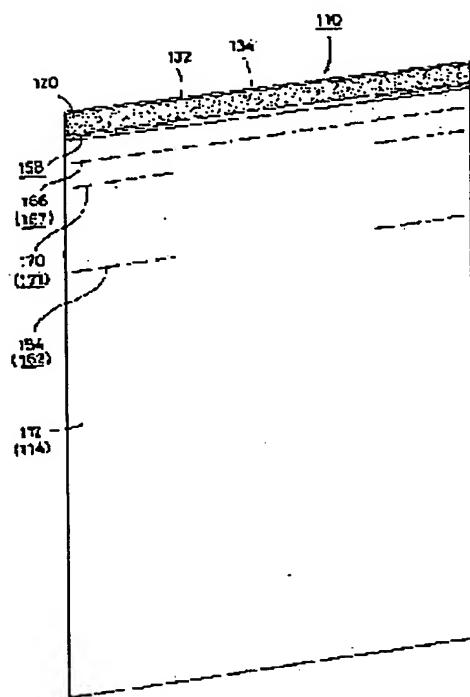
[圖 3-2]



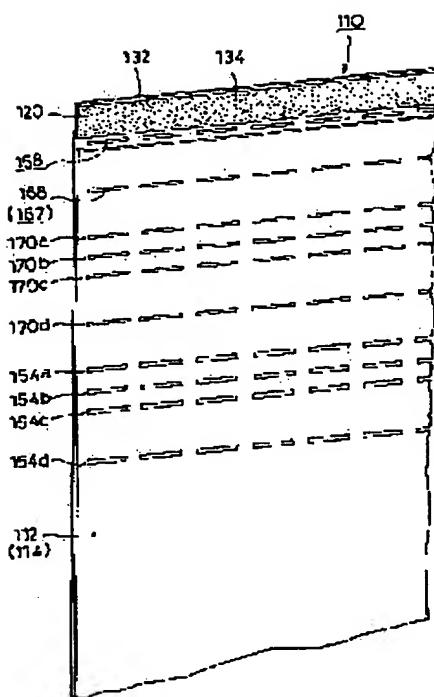
[図39]



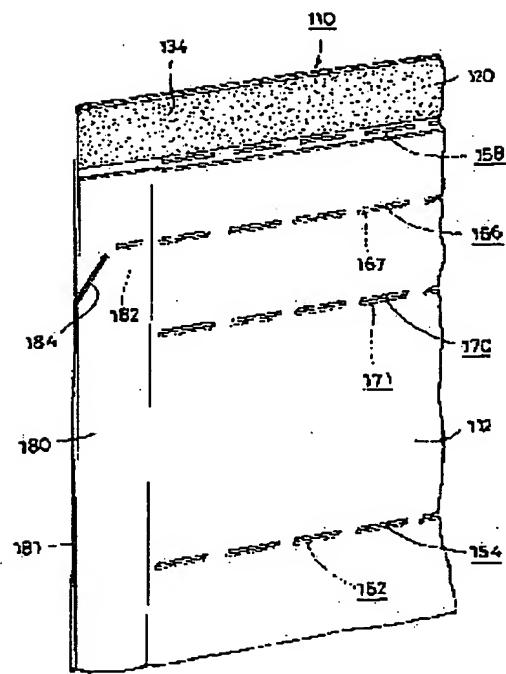
【図27】



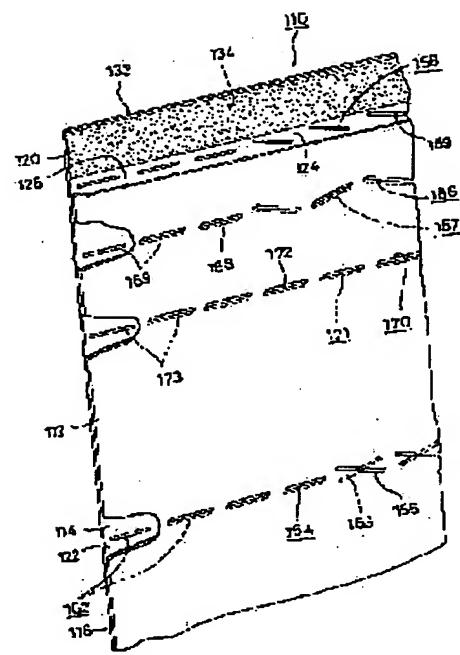
【図28】



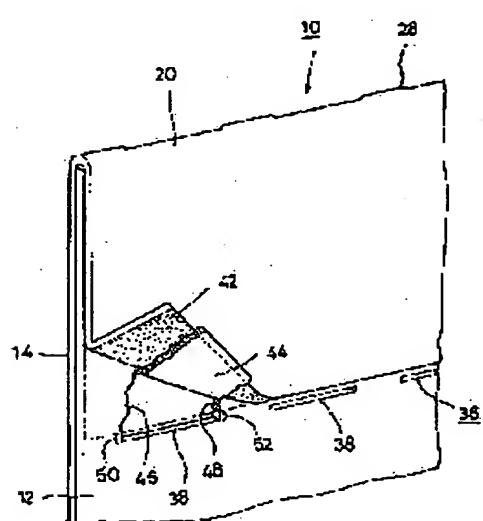
【図3-3】



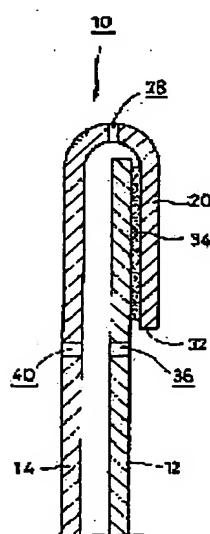
【図3-4】



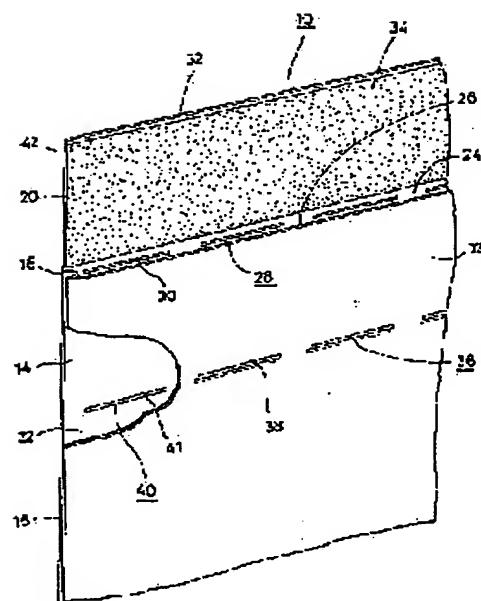
【図4-2】



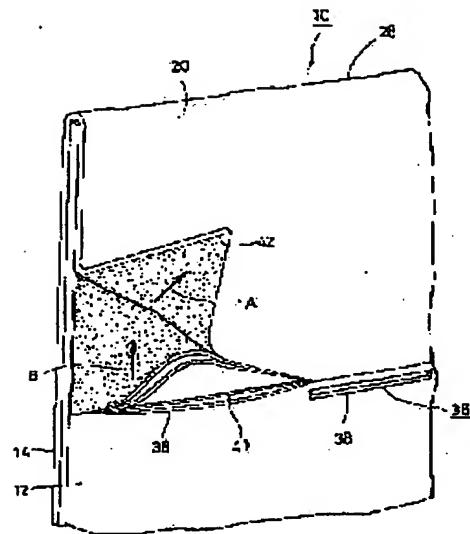
【図4-0】



[図37]



[図4.1]



[図4-3]

